

平成4年度(1992年度)

日田市埋蔵文化財年報

平成4年度日田市埋蔵文化財年報



日田市教育委員会



発刊にあたって

昭和 32 年、法恩寺山古墳群において日田市ではじめての本格的な発掘調査が別府大学賀川光夫教授を中心に行われて以来、早 35 年の歳月が経過しました。

昨今、市内では 21 世紀の都市計画を目指した道路建設や区画整理、公園整備などの開発の波が押しよせています。こうした開発ラッシュに伴い埋蔵文化財の発掘調査件数も年々増加し、消えゆく遺跡の数も多くなってきています。

反面、こうした調査により新しい歴史の発見がされていることも事実であります。小迫辻原遺跡をはじめ貴重な遺跡の発見は、市民に大きな夢とロマンを抱かせるばかりか、生きた歴史教材として教育・文化の発展に十分寄与していると確信しております。

本書はこのような開発に伴う発掘調査の記録を中心に、平成 4 年度本市教育委員会が行った埋蔵文化財保護活動をまとめあげ、その普及・啓発を目的に発行したものです。

この書物を多くの方にご高覧頂くとともに、日田市の埋蔵文化財保護行政になお一層のご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成 6 年 3 月

日田市教育委員会

教育長 加藤 正 俊

例 言

- 1、本書は平成4年度に日田市教育委員会が行った埋蔵文化財保護事業の概要をまとめたものである。
- 2、また、本書には大分県教育委員会が日田市内で行った埋蔵文化財保護事業の一部も合わせて掲載している。
- 3、発掘調査等の資料については、日田市立博物館にて保管している。
- 4、受領図書は平成4年4月1日から平成5年3月31日の間に日田市教育委員会に寄贈された書物を掲載し、併せて日田市立博物館あての書物も掲載した。
- 5、表・裏表紙の写真は荻鶴遺跡の発掘調査地の空中写真と同遺跡発見の工房跡である。
- 6、なお、本書の執筆は担当者が分担して行い、編集は土居和幸、行時志郎が行った。

目 次

発刊にあたって

I	日田市の埋蔵文化財保護行政	1
	1) 日田市の埋蔵文化財行政の歩みと課題	1
	2) 日田市の発掘調査一覧	6
	3) 刊行物一覧	14
II	平成4年度埋蔵文化財調査事業	17
	1) 平成4年度の埋蔵文化財調査の概要	17
	2) 発掘調査・確認調査の概要	18
	3) 試掘調査・立会調査の概要	28
III	平成4年度埋蔵文化財普及・啓発事業	37
	1) 現地説明会の紹介	37
	2) 広報活動	38
	3) 刊行物の紹介	40
IV	受領図書一覧	41

I 日田市の埋蔵文化財保護行政

- 1) 日田市の埋蔵文化財行政の歩みと課題
- 2) 日田市の発掘調査一覧
- 3) 刊行物一覧

1) 日田市の埋蔵文化財行政の歩みと課題

日田市内での発掘調査は昭和 26 年の川下遺跡の調査に始まり、昭和 28 年の宮ノ原遺跡、昭和 32 年の法恩寺山古墳群の調査へと続く。こうした一連の調査は別府大学の賀川光夫教授を中心とした、今で言う行政主体の緊急発掘調査ではなく学術的調査として行われた。

その後は、昭和 46 年に大分県教育委員会に文化室が新設され県内での本格的な埋蔵文化財行政がスタートする。昭和 48 年には日田市内の埋蔵文化財分布図を作成し、昭和 47・48・52 年度には吹上・北友田横穴墓、昭和 55 年度に条里遺跡の調査が県教委主体に行われた。また市教委では埋蔵文化財専門職員不在のため県教委担当者の指導派遣のもと、昭和 54・55 年度に吹上遺跡、昭和 58 年度に大波羅遺跡、後山古墳などの調査を進めてきた。

こうした一連の調査は市民への埋蔵文化財の関心を高めることとなり、日田高等学校郷土史部や日田考古学同好会はこれらの発掘調査へボランティア参加し、遺跡展示会開催にあたっては協力を行うなど積極的な活動を繰り広げた。また地元の在野の考古学研究者による古墳や遺跡の調査・研究は、今日の遺跡分布図の基礎を築いている。こうした市民レベルでの研究や活動は、本来市の埋蔵文化財行政の果たす役割の一端を果たしていたといえる。

日田市は昭和 59 年度に博物館に専門職員 1 名を配置し、埋蔵文化財の発掘調査等を担当することにした。以来、九州横断自動車道開通に向けての道路網整備やほ場整備などの公共事業と民間開発に伴う発掘調査の増加により平成元年度には専門職員 1 名、翌年度には小迫辻原遺跡の発掘調査とその保存に向けて嘱託職員 1 名の配置するなど体制整備を進めてきた。このように年々市の埋蔵文化財行政の整備は図られ、発掘調査の実施、資料の整理・保管、埋蔵文化財の保存、資料の公開、普及、啓発などの活動を推進してきた。

しかし、ここ数年来発掘調査の件数は増加傾向にあり、この傾向は本市に残る遺跡が市街地より台地周辺に集中し、今後の各種開発がその台地周辺で計画実施されていることからするとさらに増え続けると予想される。しかも装飾古墳や小迫辻原遺跡などの保存対策に加え、増え続ける遺物の整理、保管場所の確保も大きな課題となってきた。近年の古代史ブームのなか、市民の埋蔵文化財に対する意識も高まりをみせ、こうした地域住民への教育活動の充実も必要に迫られてきている。

こうした現状を踏まえると今後の日田市の埋蔵文化財保護行政は、さらに増え続けると予想される発掘調査の体制整備、効率的な調査の実施とその事務の迅速化、資料の整理・保管・公開・活用施設の建設の推進が急務となってきたおり、引き続き市民への埋蔵文化財の意識と理解のためのより一層の努力が必要であろう。

以下では、昭和 59 年度以降の日田市の埋蔵文化財保護行政を概観して見る。

(昭和 59 年度)

専門職員 1 名の配置により、体制整備が行われた。

この年は大分県史跡に指定され装飾古墳としても知られているガランドヤ古墳群の確認調査が、県教委の指導のもと 2 年間の予定で開始された。調査では 2 基の古墳から多数の遺物があり、大きな成果を上げることができた。

さらに、徳瀬遺跡での緊急発掘調査では堅穴住居や溝などの確認があり、盆地沖積地にも遺跡が残っていることが明らかになった。

このほか、圃場整備や病院建設などに伴う試掘調査も行われ、日田市での本格的な埋蔵文化財行政がスタートした。

一方、県教委による大分自動車道建設に伴う草場第二遺跡の発掘調査、砂防工事に伴う羽野横穴墓発掘調査が行われている。こうした草場第二遺跡やガランドヤ古墳群の調査はマスコミ報道され、埋蔵文化財に対する市民の関心が高まった年とも言える。



ガランドヤ古墳群の発掘調査



草場第二遺跡の発掘調査



ガランドヤ 2 号墳発見の壁画



吹上遺跡の体験発掘調査

(昭和 60 年度)

市教委ではこの年もガランドヤ古墳群の調査を引き続き行い、2 号墳において新たな壁画の発見など多大な成果をあげ予定の調査を終了した。

また、この年から市内で予定されている各種の公共事業や個人宅地の開発に対して事前の試掘調査などを行うべく国庫・県費の補助事業として日田地区遺跡群発掘調査事業を開始し、初年度は圃場整備、農道整備、宅地開発に伴い諸留・長者原・吹上の各遺跡の調査を行った。

さらに、県教委による草場第二遺跡の発掘調査も継続して行われ、遺跡の全容が明らかとなった。

こうしたなか、市教委では草場第二遺跡を広く市民に知ってもらうため、別府大学賀川光夫教授の講演と草場第二遺跡の現地説明会を開催した。このほか、ガランドヤ古墳群の調査では地元小学生への説明会の開催や、吹上遺跡では地元小学生参加による体験発掘調査を行っている。

(昭和 61 年度)

この年は 4 月 20 日から 10 日にわたって開催した、市立郷土史料館の開館 5 周年事業「岳林寺周辺の遺跡展」に始まった。特別展では前年まで行われたガランドヤ古墳や草場第二遺跡、吹上遺跡など 9 遺跡の資料を展示し、連日多くの市民の来館者があった。

発掘調査ではスポーツ広場に伴う穴原遺跡の調査が行われ、縄文時代早期の包含層から押型文土器や石鏃の出土があった。

さらに、日田地区遺跡群発掘調査事業として民間宅地に伴い長者原遺跡・向原遺跡の調査、区画整理事業に伴い田島遺跡の調査が行われた。このほか、研修施設建設に伴う萩尾遺跡の調査を行っている。

一方、県教委の大分自動車道に伴う調査では小迫辻原遺跡・二串第二遺跡・小迫古墳・小迫横穴墓の調査が相次いで行われた。



特別展の開催風景



穴原遺跡の発掘調査



葛原遺跡の復元家屋



朝日宮ノ原遺跡の発掘調査

(昭和 62 年度)

この年から遺跡の調査も増え始め、さらに調査面積も広がってくる。このため、専門の嘱託職員と事務職員をそれぞれ 1 名づつ増やし、体制の整備を図っている。

発掘調査も本格化し、工場建設及びバイパス建設に伴う葛原遺跡、地力増進事業に伴う朝日宮ノ原遺跡の調査が行われた。なかでも葛原遺跡では開発者の理解により発見された竪穴住居の現状保存とその復元家屋の整備がされた。

このほか、市道建設や区画整理、地力増進事業に伴う試掘調査や、姫塚古墳とその周辺の確認調査が行われた。

さらに、県教委による大分自動車道に伴う発掘調査も小迫辻原遺跡と小迫古墳・小迫横穴墓において調査が進められた。このなかでも小迫辻原遺跡では、古墳時代前期の居館 2 基が発見された。この発見は居館が日本最古に属することから大きくマスコミ報道され、現地説明会には雪の舞う中大勢の参加者をよんだ。

(昭和 63 年度)

この年は、昨年度小迫辻原遺跡で調査された古墳時代前期の居館 2 基の保存問題とその後の方針に明け暮れた。保存に関しては県教委と日本道路公団が中心となり遺跡の取扱いについての協議がなされ、結果的にはその一部の保存が決まった。また市教委ではこうした経過を踏まえ、同遺跡で予定の地力増進事業に伴う発掘調査を本格的に開始することとした。この調査では新たに台地西部で居館と同時期の環濠 1 条が確認された。



小迫辻原遺跡の保存擁壁

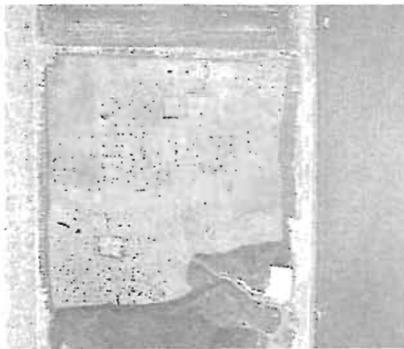
このほか、圃場整備事業に伴い平島遺跡、畑地造成に伴う朝日宮ノ原遺跡の試掘調査が行われ、その後発掘調査を行った。



平島遺跡の発掘調査

このほか、先の小迫辻原遺跡の居館部分と前方後円墳である城山古墳が大分県史跡の指定を受けた。

小迫辻原遺跡の今後の継続した調査や発掘調査の増加により職員体制が叫ばれる時期にきた年でもある。



小迫辻原遺跡の古代建物群

(平成元年度)

専門職員 1 名が配置となり、体制の整備が図られた。

発掘調査は地力増進事業に伴い小迫辻原遺跡の 2 ケ所の地点と県道改良工事に伴い平島遺跡の調査を行った。特に小迫辻原遺跡の調査では古代の官衙風建物群と「大領？」銘墨書土器の発見、中世の環溝屋敷の確認があり、この遺跡の重要性を高める調査となった。

このほか、市道建設、農道建設、圃場整備などの公共事業や工場建設など民間事業などに伴う試掘調査が行われ、これまでにない開発ラッシュを迎える。



市史跡となった平島遺跡

一方、県教委は国道 210 号バイパスに伴う調査を開始し、陣ヶ原遺跡などの調査を行っている。

このほか、「小迫辻原遺跡・吉野ヶ里遺跡発掘調査報告会」の開催や、惣田塚・三郎丸・平島古墳の市史跡、有田古墳一括遺物の市有形文化財の指定を行った。また、小迫辻原遺跡の県史跡地の公有化を行った。

(平成2年度)

益々増える発掘調査と小迫辻原遺跡の本格的な調査に伴い嘱託職員1名の配置となり、体制の整備が図られた。

発掘調査では小迫辻原遺跡で地力増進事業に伴う調査に加え、遺跡の範囲を確認する調査が並行して開始される。また市道建設・圃場整備・ゴルフ場建設に伴い会所宮遺跡、長者原田迎遺跡、西有田赤ハゲ遺跡の調査が行われた。

一方、県教委の調査も数を増し、大分自動車道関係では佐寺原遺跡や堂園遺跡、国道210号バイパス関係では上野第一遺跡、さらには国家公務員宿舎建設に伴い慈眼山遺跡の調査が相次いで行われた。なかでも、上野第一遺跡からは「豊馬」と刻まれた文字資料が発見され注目を集めた。

また、日田考古学同好会が発足し、日田青年会議所主催の古代史シンポジウムが開催されるなど市民レベルでの活動が行われた。さらに小迫辻原遺跡では現地説明会が開催され、「日田市史」が発行された。



長者原田迎遺跡の発掘調査



小迫辻原遺跡の現地説明会



小迫辻原遺跡の居館跡



文化財資料室の作業風景

(平成3年度)

この年は小迫辻原遺跡の発掘調査が中心となり、前年度に引き続き地力増進事業と遺跡の範囲確認調査が行われ、新たに居館1基が確認された。

このほか、市道建設に伴い上野切畑山遺跡と惣田遺跡、下水道工事に伴い会所宮遺跡の調査がそれぞれ行われた。また、この年はまだバブルの影響もあることから、民間開発の申請が増え試掘調査に追われはじめた。

さらに、調査において出土する遺物の増加により、それまで手狭だった文化財資料室の拡充が行われた。

一方、県教委の調査も大分自動車道関係では大迫遺跡・後迫遺跡、国道210号バイパス関係では手崎遺跡・大部遺跡、前年度引き続き慈眼山遺跡の調査が行われた。

この年は台風19号の影響により、法恩寺山古墳群などの史跡への被害があった。また、ガランドヤ古墳群の国史跡化とその後の整備にむけた構想検討委員会が開かれている。

2) 日田市の発掘調査一覧

番号	遺 跡 名	所 在 地	調査原因	調査主体
(昭和26年度)				
1	川下遺跡	大字川下(字高岩地)		
(昭和28年度)				
2	朝日宮ノ原遺跡	大字小迫(字宮原地)		
(昭和32年度)				
3	法恩寺山古墳群	大字日高(字法恩寺)	遺跡整備	市教委
(昭和47年度)				
4	吹上横穴墓群	大字小迫(字吹上)	砂防工事	県教委
(昭和48年度)				
5	北友田横穴墓群	大字友田(字上原)	砂防工事	県教委
(昭和52年度)				
5	北友田横穴墓群	大字友田(字上原)	砂防工事	県教委
(昭和54年度)				
6	吹上遺跡	大字小迫(字吹上原)	圃場整備	市教委
(昭和55年度)				
6	吹上遺跡	大字小迫(字吹上原)	圃場整備	市教委
7	渡里条里遺跡	大字渡里(字大道西地)	道路建設	県教委
(昭和58年度)				
8	大波羅遺跡	大字田島(字大原地)	公園造成	市教委
9	後山古墳	大字田島(字後山)	墓地造成	〃
10	草場第二遺跡	大字渡里(字林)	道路建設	県教委
11	小迫原遺跡<後に小迫辻原遺跡>	大字小迫(字羅塚)	〃	〃
12	二串西原遺跡	大字二串(字西原)	〃	〃
13	横断道N.O. 8地点	大字二串(字朝手水迫)	〃	〃
14	横断道N.O. 13地点	大字夜明	〃	〃
15	横断道N.O. 14地点	大字夜明	〃	〃
(昭和59年度)				
16	ガランドヤ古墳群	大字石井(字西ノ園地)	遺跡整備	市教委
16	〃	〃	〃	〃
17	平野遺跡	大字内河野(字平野地)	広場造成	〃
18	三和条里遺跡	大字三和(字巻町田地)	病院建設	〃
19	平島遺跡	大字東有田(字徳野地)	圃場整備	〃
20	向原遺跡	大字小迫(字小迫原地)	宅地造成	〃
21	徳瀬遺跡(A区)	大字友田(字徳瀬)	地力増進	〃
10	草場第二遺跡	大字渡里(字林)	道路建設	県教委
11	小迫原遺跡<後に小迫辻原遺跡>	大字小迫(字上原)	〃	〃
22	祝原遺跡	大字夜明(字祝原)	〃	〃
23	朝日第一遺跡	大字小迫(字内園地)	〃	〃
24	朝日第二遺跡	大字二串(字門ナシ)	〃	〃
25	二串遺跡<後に二串第一遺跡>	大字二串(字朝手水迫)	〃	〃
26	日田条里遺跡(渡里地区)	大字渡里(字桑ノ本地)	〃	〃
27	羽野横穴墓群	大字三和(字城ノ脇)	砂防工事	〃

調査面積	調査種類	調査年月日	時代	遺跡の種類	参考文献
			縄文	散布地	1,2,3
			弥生・古墳・中世	墓地	4
古墳2基	発掘調査	08.28～	古墳	墓地	5,6,7,8
	"	12.07～	古墳	横穴墓	9
	"	01.30～02.09	古墳	横穴墓	10,11
	"	07.25～08.11	古墳	横穴墓	12,13
約 300 m ²	試掘調査	08.20～10.09	弥生・古墳	集落跡・墓地	14,15,16,17
約 300 m ²	試掘調査	11.13～01.31	弥生	集落跡・墓地	16,17,18,19
	"				
	試掘調査	11.28～12.02			20
古墳1基	発掘調査	05.24～06.11	古墳	墓地	20
240 m ²	試掘調査	05.16～03.20	旧石器・弥生・古墳・中世	墓地・集落跡	21
96 m ²	"	"	縄文～中世		21
316 m ²	"	"	旧石器	包含層	21
	"	"			21
88 m ²	"	"			21
52 m ²	"	"			21
古墳2基	発掘調査	09.25～11.15	古墳	墓地	6,7,22,23
"	"	03.07～03.22	"	"	6,7,22,23
72 m ²	試掘調査	06.25～07.14	旧石器・縄文	散布地	24
416 m ²	"	07.03～07.06	弥生・古墳	"	24
40 m ²	"	09.04～09.12	"	"	24
20 m ²	"	09.27	"	"	24
70 m ²	発掘調査	12.03～03.05	"	集落跡	16,17,24
3,000 m ²	"	05.28～	"	墓地	16,17,25,26
500 m ²	試掘調査	"	縄文～中世	集落跡	26
約 450 m ²	"	"			26
約 110 m ²	"	"			26
	"	"			26
176 m ²	"	"			26
	"	"			26
約 600 m ²	発掘調査	07.30～09.08	古墳	墓地	27,28

番号	遺 跡 名	所 在 地	調査原因	調査主体
(昭和60年度)				
28	長者原遺跡	大字内河野(字倉園)	遺跡確認	市教委
29	諸留条里遺跡	大字東有田(字御池)	圃場整備	〃
6	吹上遺跡	大字小迫(字吹上原他)	地力増進	〃
16	ガランドヤ古墳群	大字石井(字西ノ園他)	遺跡整備	〃
10	草場第二遺跡	大字渡里(字村)	道路建設	県教委
11	小迫原遺跡<後に小迫辻原遺跡>(A区)	大字小迫(字辻原・塚塚)	〃	〃
25	二串遺跡<後に二串第一遺跡>	大字二串(字御手水迫)	〃	〃
30	二串第二遺跡	〃	〃	〃
(昭和61年度)				
31	穴原遺跡	大字友田(字穴原)	広場造成	市教委
6	吹上遺跡	大字小迫(字吹上原他)	地力増進	〃
28	長者原遺跡	大字内河野(字仲原)	宅地造成	〃
20	向原遺跡	大字小迫(字向原)	〃	〃
32	田島遺跡	大字田島(字四反畑他)	区画整理	〃
32	〃	大字日高(字東寺原)	道路建設	〃
33	萩尾遺跡	大字友田(字萩尾)	宅地造成	〃
34	葛原遺跡	大字西有田(字葛原)	工場建設	〃
29	諸留条里遺跡	大字東有田(字御池)	圃場整備	〃
11	小迫辻原遺跡(A・B・C区)	大字小迫(字辻原)	道路建設	県教委
30	二串第二遺跡	大字二串(字御ノ脇)	〃	〃
35	小迫古墳	大字二串(字門ナシ)	〃	〃
36	小迫横穴墓群	大字二串(字門ナシ)	〃	〃
37	朝日低地地区	大字小迫(字妻善鹿他)	〃	〃
(昭和62年度)				
34	葛原遺跡(A～E区)	大字西有田(字葛原)	工場建設	市教委
34	〃(F区)	〃	道路建設	〃
32	田島遺跡	大字田島(字四反畑他)	区画整理	〃
32	〃	〃	道路建設	〃
11	小迫辻原遺跡(L区)	大字小迫(字辻原)	地力増進	〃
2	朝日宮ノ原遺跡(A・B区)	大字小迫(字宮原他)	〃	〃
2	朝日宮ノ原遺跡(A区)	大字小迫(字宮原)	〃	〃
38	姫塚古墳	大字高瀬(字塚)	遺跡整備	〃
39	日高遺跡	大字日高(字菰迫他)	道路建設	〃
2	朝日宮ノ原遺跡(C区)	〃	〃	県教委
11	小迫辻原遺跡(R区)	大字小迫(字辻原)	地力増進	〃
11	〃(C・D・E・F区)	〃	道路建設	〃
35	小迫古墳	大字二串(字門ナシ)	〃	〃
36	小迫横穴墓群	〃	〃	〃
(昭和63年度)				
2	朝日宮ノ原遺跡	大字山田(字中ノ前)	畑地造成	市教委
2	〃(D区)	〃	〃	〃
19	平島遺跡	大字東有田(字松葉他)	圃場整備	〃
19	〃(A区)	大字東有田(字松葉他)	〃	〃

調査面積	調査種類	調査年月日	時代	遺跡の種類	参考文献
100 m ²	試掘調査	07.29 ~ 09.06	縄文・弥生	集落跡	29,31
86 m ²	"	09.09 ~ 09.12			29,31
112 m ²	発掘調査	11.18 ~ 01.25	弥生	集落跡	29,31
古墳2基	"	06.04 ~ 07.22	古墳	墓地	23,29,31
約 3,000 m ²	"	05.28 ~	弥生・古墳	"	6,7,25
約 8,000 m ²	"	"	弥生~中世	集落跡・墓地	30
150 m ²	試掘調査	"	古墳	集落跡	30
"	"	"			30
約 300 m ²	発掘調査	06.09 ~ 07.11	縄文	散布地	32
46 m ²	"	01.16 ~ 02.13	弥生・古墳	集落跡・墓地	16,17,32,33
約 130 m ²	試掘調査	08.18 ~ 09.06	縄文・古墳	集落跡	32,33
236 m ²	"	10.20 ~ 11.04			32,33
72 m ²	"	11.06 ~ 11.28	弥生~中世	包含層	32,33
101 m ²	"	11.06 ~ 11.28	"	散布地	32,33
約 50 m ²	"	07.28 ~ 08.05	縄文	"	32
約 1,000 m ²	"	02.24 ~ 03.26	弥生・古墳	集落跡	32
106 m ²	"				32
約 3,000 m ²	発掘調査	05.07 ~	弥生~中世	集落跡	34,35
約 100 m ²	"	"	古墳	"	34
約 5 m ²	試掘調査	"	"	墓地	34
約 400 m ²	"	"	"	"	34
"	"	"			34
約 10,000 m ²	発掘調査	05.25 ~ 11.04	弥生・古墳	集落跡	36,37
約 1,600 m ²	"	"	"	"	36,37
80 m ²	試掘調査	08.26 ~ 09.07	弥生	散布地	36,37
50 m ²	"	"	"	"	36,37
約 430 m ²	"	12.16 ~ 12.24	弥生・古墳	集落跡	36,37
368 m ²	"	"	弥生・中世	集落跡・墓地	36,37
約 3,000 m ²	発掘調査	12.16 ~ 01.31	弥生・中世	集落跡・墓地	28,36,39,40
古墳1基	試掘調査	02.08 ~ 03.03	"	墓地	36,37
66 m ²	"	12.10 ~ 12.12	弥生	散布地	36
250 m ²	試掘調査	03.14 ~ 03.18	弥生	集落跡	36
144 m ²	"	02.01 ~ 02.02	弥生~中世	集落跡	38
約 14,000 m ²	発掘調査	04.27 ~ 01.31	弥生~中世	集落跡・墓地	6,7,35,41
約 500 m ²	"	"	古墳	墓地	6,7,41
約 28,000 m ²	"	"	古墳・中世	墓地	6,7,41
約 370 m ²	試掘調査	06.27 ~ 07.12	弥生・古墳	墓地	42,45
約 370 m ²	発掘調査	07.13 ~ 08.12	弥生・古墳	墓地	28,42,45
約 500 m ²	試掘調査	08.18 ~ 08.22	弥生~中世	集落跡・墓地	42,45
約 3,400 m ²	発掘調査	08.30 ~ 03.15	"	"	42,43,45

番号	遺 跡 名	所 在 地	調査原因	調査主体
11	小迫辻原遺跡 (N区)	大字小迫(字辻原)	地力増進	市教委
36	小迫横穴墓群	大字二串(字門ノ)	道路建設	県教委
40	草場第一遺跡	大字渡里(字篠ノ道他)	"	"
11	小迫辻原遺跡 (R区)	大字小迫(字辻原)	地力増進	"
(平成元年度)				
11	小迫辻原遺跡 (O-1・K-2・K-3区)	大字小迫(字辻原)	地力増進	市教委
11	" (K-1区)	"	"	"
19	平島遺跡 (B区)	大字東有田(字松葉他)	道路建設	"
34	葛原遺跡	大字西有田(字葛原)	宅地建設	"
41	一丁田遺跡	大字日高(字一丁他)	道路建設	"
42	町野原遺跡	大字東有田(字町野原)	"	"
28	長者原遺跡	大字内河野(字田迎他)	圃場整備	"
43	内河野遺跡	大字内河野(字下屋敷他)	"	"
44	城ノ越遺跡	大字小迫(字城ノ越)	工場建設	"
45	慈眼山遺跡	大字北豆田(字瀬戸口)	住宅建設	県教委
46	高瀬遺跡	大字高瀬	道路建設	"
47	琴平山遺跡	大字高瀬(字琴平山他)	"	"
48	陣ヶ原遺跡	大字高瀬(字陣ヶ原他)	"	"
49	上野第一遺跡	大字上野(字東原他)	"	"
50	手崎遺跡	大字高瀬(字手崎)	"	"
(平成2年度)				
11	小迫辻原遺跡 (P・K-3・H-1区)	大字小迫(字辻原他)	地力増進	市教委
11	" (G-1・J-1・K-4・L-2区)	"	範囲確認	"
51	会所宮遺跡 (A区)	大字日高(字後山)	道路建設	"
28	長者原田迎遺跡	大字内河野(字田迎他)	圃場整備	"
52	西有田赤ハゲ遺跡	大字西有田(字赤ハゲ他)	ゴルフ場	"
52	"	"	"	"
53	惣田遺跡	大字高瀬(字惣田他)	道路建設	"
54	日高小迫遺跡	大字日高(字小迫)	道路建設	"
55	水目遺跡	大字有田(字水目他)	"	"
56	大肥条里遺跡	大字大肥(字吉竹他)	河川改修	"
57	朝日滝ノ本遺跡	大字朝日(字滝ノ本)	砂防工事	"
58	中尾遺跡	大字有田(字堀口他)	道路建設	"
19	平島遺跡	大字東有田(字松葉)	"	"
59	渡里後ノ迫遺跡	大字渡里(字後ノ迫)	工場建設	"
45	慈眼山瀬戸口遺跡	大字北豆田(字瀬戸口)	住宅建設	県教委
45	慈眼山遺跡 (A地点)	"	住宅建設	"
60	佐寺原遺跡	大字有田(字佐寺原他)	道路建設	"
61	堂園遺跡	大字有田(字堂園他)	"	"
62	日田条里遺跡 (天神地区)	大字三和(字玉反田他)	"	"
63	大迫遺跡	大字有田(字大迫他)	"	"
64	中尾原遺跡	"	"	"
65	鹿倉B遺跡	大字東有田(字平畑他)	"	"
66	藪地区	大字東有田(字ウスビ他)	"	"

調査面積	調査種類	調査年月日	時代	遺跡の種類	参考文献
約 2,000 m ²	発掘調査	11.09 ~ 02.25	弥生~中世	集落跡・墓地	35,46,49
約 28,000 m ²	"	04. ~ 06.30	古墳・中世	墓地	6,7
約 10,000 m ²	試掘調査	10.01 ~ 12.			
80 m ²	"				44
約 4,600 m ²	発掘調査	08.10 ~ 03.08	弥生~中世	集落跡・墓地	35,46,49
約 1,600 m ²	"	10.30 ~ 02.28	弥生~中世	"	35,47,49
約 1,000 m ²	"	07.20 ~ 09.20	弥生~中世	集落跡	48,49
約 200 m ²	試掘調査	05.22 ~ 05.24		"	46,49
24 m ²	"	09.27・28	弥生	散布地	46,49
30 m ²	"	10.30 ~ 11.02	縄文	"	46,49
10 m ²	"	11.16 ~ 11.25	中世	集落跡	46,49
140 m ²	"	12.18 ~ 12.23	縄文~古墳	散布地	49
100 m ²	"	10.11			49
約 50 m ²	"	03.12 ~ 03.16	奈良・中世	集落跡	28,49
	発掘調査	06.01 ~ 11.	弥生・古墳	"	50
	試掘調査	"			50
	"	"	弥生	集落跡	50
	"	"	奈良	"	28,50
	"	"	"	"	50
7,090 m ²	発掘調査	08.08 ~ 03.24	弥生~中世	集落跡	35,51,52,56
8,680 m ²	確認調査	08.20 ~ 03.29	弥生~中世	集落跡	35,52,55,57
約 1,500 m ²	発掘調査	06.21 ~ 08.06	弥生~中世	城跡	52,56
約 5,000 m ²	"	11.06 ~ 01.12	"	集落跡	52,53,56
1,000 m ²	試掘調査	04.25 ~ 05.10	縄文~古墳	集落跡	54,56
約 10,000 m ²	発掘調査	06.25 ~ 11.02	"	"	54,56
50 m ²	試掘調査	12.07 ~ 12.17	古墳~中世	散布地	51,57
40 m ²	"	02.01	古墳	"	51,57
50 m ²	"	06.28 ~ 07.06			56
1,000 m ²	"	07.19 ~ 07.21			56
約 100 m ²	"	09.17 ~ 09.22			56
500 m ²	"	01.28 ~ 02.02	弥生	散布地	56
80 m ²	"	01.28 ~ 02.02	"	集落跡	56
200 m ²	"	10.03 ~ 10.05	古墳	散布地	56
700 m ²	発掘調査	09.03 ~ 12.	中世	集落跡	52,57
約 100 m ²	"	11.06 ~ 11.28	"	"	58
約 4,000 m ²	"	05.07 ~ 03.01	弥生	"	52,59
約 2,700 m ²	"	12. ~ 02.	古墳・奈良	"	59
8,000 m ²	試掘調査	08. ~			59
900 m ²	"	02. ~	古墳	墓地	59
	"				59
600 m ²	"	12. ~ 01.			59
500 m ²	"	11.			59

番号	遺 跡 名	所 在 地	調査原因	調査主体
67	神社地区	大字東有田(字山ノ神)	道路建設	県教委
68	誠和神社裏遺跡	大字高瀬(字源)	〃	〃
48	陣ヶ原小原遺跡	大字高瀬(字源)	〃	〃
48	陣ヶ原辻原遺跡	大字高瀬(字源)	〃	〃
48	上野第一遺跡(東原地区)	大字上野(字東原他)	〃	〃
(平成3年度)				
11	小迫辻原遺跡(H-2・O-2区)	大字小迫(字源)	地力増進	市教委
11	〃(G-1・H-1・K-2・L-2区)	〃	範囲確認	〃
49	上野切畑山遺跡	大字上野(字切畑山)	道路建設	〃
52	惣田遺跡(A区)	大字高瀬(字惣田他)	〃	〃
69	板屋遺跡	大字小野(字板屋)	学校建設	〃
70	小見取遺跡	大字渡里(字小見取)	道路建設	〃
71	衣職手遺跡	大字渡里(字衣職手)	宅地造成	〃
72	中筋遺跡	大字石井(字中筋他)	工場建設	〃
73	南友田遺跡	大字友田(字南友田)	〃	〃
6	吹上遺跡	大字渡里(字吹上)	宅地造成	〃
74	蛇迫遺跡	大字求来里(字蛇迫)	倉庫建設	〃
75	萩鶴遺跡	大字友田(字萩鶴)	リゾート	〃
45	慈眼山遺跡	大字北豆田(字慈眼山)	住宅建設	県教委
76	後迫遺跡	大字三和(字上ノ原他)	道路建設	〃
62	大迫遺跡	大字有田(字大迫)	〃	〃
61	日田条里遺跡(天神地区)	大字三和(字五反田他)	〃	〃
77	有田横枕遺跡	大字東有田(字横枕)	〃	〃
78	七ツ枝遺跡	大字東有田(字七ツ枝)	〃	〃
49	手崎遺跡	大字高瀬(字手崎)	〃	〃
49	〃	〃	〃	〃
79	大部遺跡	大字日高(字牧原)	〃	〃
48	上野遺跡	大字上野(字上野)	〃	〃
47	陣ヶ原遺跡	大字高瀬(字陣ヶ原)	〃	〃
80	天神尾遺跡	大字求来里(字天神尾)	〃	〃
27	羽野横穴群	大字三和(字城ノ原)	砂防工事	〃
19	平島遺跡	大字東有田(字松葉)	道路建設	〃
81	上野地区	大字上野	〃	〃

調査面積	調査種類	調査年月日	時代	遺跡の種類	参考文献
500 m ²	試掘調査	11.			59
300 m ²	発掘調査	04.	奈良	集落跡	60
50 m ²	試掘調査	07.	中世	散布地	60
1,200 m ²	発掘調査	05. ~ 06.	奈良	集落跡	60
2,000 m ²	〃	07. ~ 12.	〃	〃	28,60
約 6,300 m ²	発掘調査	08.26 ~ 03.03	弥生~中世	集落跡	61,63,66
	確認調査	04.03 ~ 08.20	弥生~中世	〃	63,66
512 m ²	発掘調査	06.26 ~ 07.12	奈良・中世	〃	62,63,66
1,440 m ²	〃	08.26 ~ 09.13	弥生・中世	〃	63,66
68 m ²	試掘調査	11.11 ~ 11.14			61,63
53 m ²	〃	11.11 ~ 11.13			61,63
100 m ²	〃	11.21			63
500 m ²	〃	01.17			63
50 m ²	〃	02.12			63
80 m ²	〃	11.19	弥生	散布地	63
50 m ²	〃	08.30			63
1,000 m ²	〃	12.13 ~ 12.20	中世	集落跡・水田	63,66
1,200 m ²	発掘調査	08.01 ~ 01.31	奈良・中世	集落跡	57,66
15,000 m ²	〃	06.01 ~ 03.30	弥生	〃	64,66
900 m ²	〃	04.08 ~ 08.02	古墳	墓地	64,66
10,000 m ²	試掘調査	09.01 ~ 09.30	古墳	集落跡	64,66
35,000 m ²	〃	09. ~ 10.			64,66
6,000 m ²	〃	08.06 ~ 09.24	近世	集落跡	64,66
約 800 m ²	発掘調査	05.07 ~ 02.21	縄文~中世	〃	65,66
	試掘調査		奈良	集落跡	63
	発掘調査	02.22 ~ 03.30	縄文~奈良	〃	65,66
	試掘調査	02.	奈良	〃	65
	発掘調査	07.16 ~ 08.31	弥生	集落跡	66
約 400 m ²	〃	08.01 ~ 09.24	中世	包含層	66
600 m ²	〃	03.03 ~ 03.26	古墳	墓地	63,66
約 1,500 m ²	〃	05.22 ~ 05.31	弥生	集落跡	66
	試掘調査	08.			65

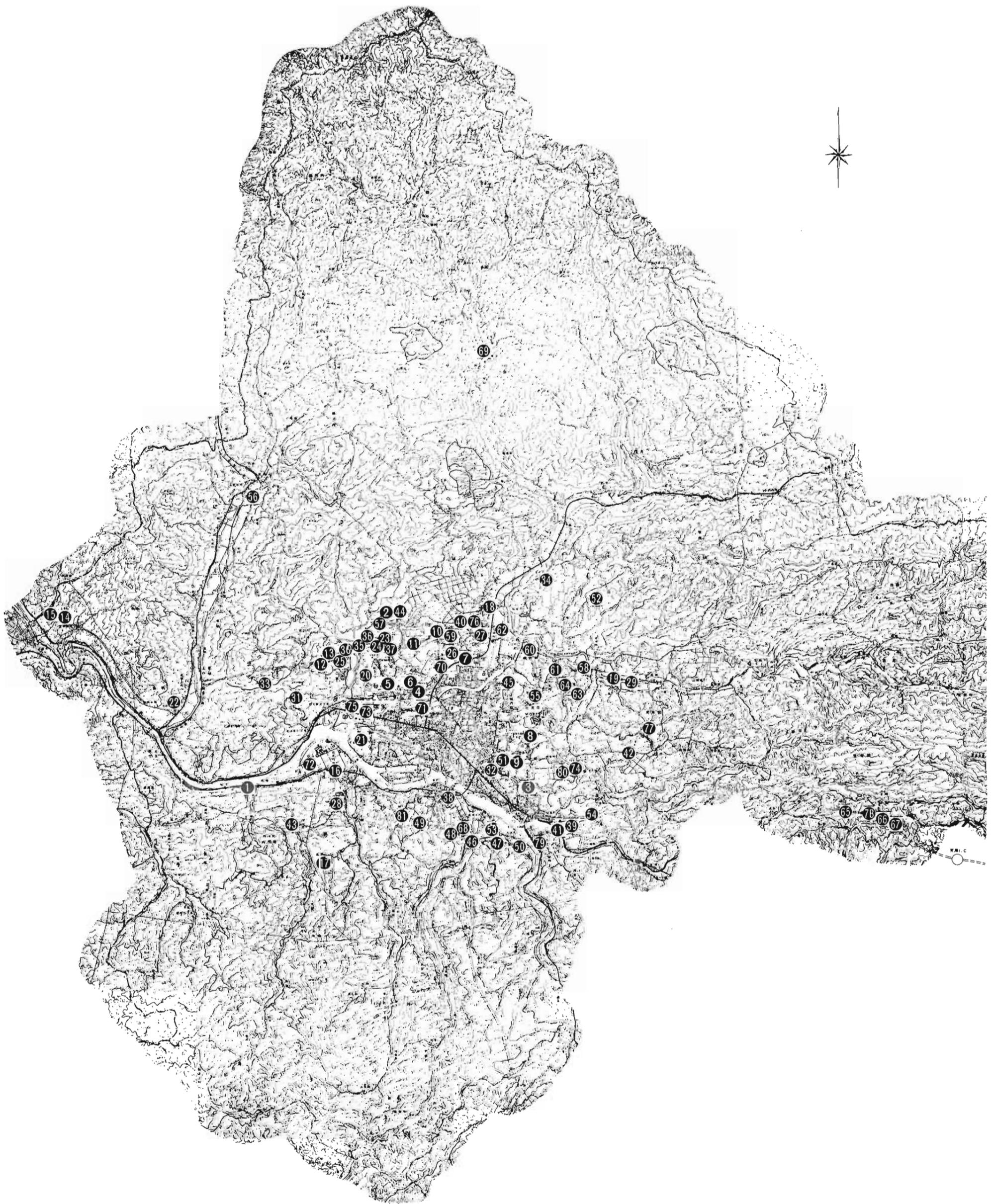
3) 刊行物一覧

- 1, 穴井通照「筑後川上流の縄文式土器」『九州考古学』11, 12号 1961年
- 2, 穴井通照「川下遺跡 石人など」『日田文化』2号 日田市教育委員会 1957年
- 3, 穴井通照「縄文時代」『日田市史』 1990年
- 4, 賀川光夫「箱式棺を外郭施設とする甕棺—日田地方の二つの例—」『考古学雑誌』40-3号 1954年
- 5, 『法恩寺山古墳群』発掘調査報告書 日田市教育委員会 1959年
- 6, 渋谷忠章ほか「古墳時代」『大分県史 先史編Ⅱ』 大分県 1989年
- 7, 後藤宗俊ほか「古墳時代」『日田市史』 日田市 1990年
- 8, 穴井通照「法恩寺山古墳と遺物」『日田文化』3号 日田市教育委員会 1958年
- 9, 「昭和47年度文化財関係事業概況」『日田文化』16号 日田市教育委員会 1973年
- 10, 渋谷忠章「北友田横穴群」『日本考古学年報』25号 1974年
- 11, 「昭和48年度文化財関係事業概況」『日田文化』17号 日田市教育委員会 1974年
- 12, 高橋徹「北友田横穴古墳」『日本考古学年報』30号 1979年
- 13, 「昭和52年度文化財保護事業概況」『日田文化』21号 日田市教育委員会 1978年
- 14, 『吹上遺跡Ⅰ』 日田市教育委員会 1980年
- 15, 「昭和54年度文化財保護事業概況」『日田文化』23号 日田市教育委員会 1980年
- 16, 土居和幸「弥生時代」『日田市史』 日田市 1990年
- 17, 高橋徹「弥生時代」『大分県史 先史編Ⅱ』 大分県 1989年
- 18, 『吹上遺跡Ⅱ』 日田市教育委員会 1981年
- 19, 「昭和55年度文化財保護事業概況」『日田文化』24号 日田市教育委員会 1981年
- 20, 「昭和58年度文化財保護事業概況」『日田文化』27号 日田市教育委員会 1984年
- 21, 『九州横断自動車道建設に伴う発掘調査概報』—日田地区— 大分県教育委員会 1984年
- 22, 『カランドヤ古墳群発掘調査概報』 日田市教育委員会 1985年
- 23, 『ガランドヤ古墳群』発掘調査報告書 日田市教育委員会 1986年
- 24, 「昭和59年度文化財保護事業概況」『日田文化』28号 日田市教育委員会 1985年
- 25, 『草場第二遺跡』九州横断自動車道関係発掘調査報告(1) 大分県教育委員会 1990年
- 26, 『九州横断自動車道建設に伴う発掘調査概報』—日田地区— 大分県教育委員会 1985年
- 27, 『日田市羽野横穴群発掘調査概報』 大分県教育委員会 1985年
- 28, 『遺跡が語る大分の歴史』—大分県の埋蔵文化財— 大分県教育委員会 1992年
- 29, 「長者原遺跡・諸留条里遺跡・吹上遺跡」『日田地区遺跡群発掘調査概報Ⅰ』 日田市教育

委員会 1986年

- 30, 『九州横断自動車道建設に伴う発掘調査概報』 -日田地区- 大分県教育委員会 1986年
- 31, 「昭和60年度文化財保護事業概況」『日田文化』29号 日田市教育委員会 1986年
- 32, 「昭和61年度文化財保護事業概況」『日田文化』30号 日田市教育委員会 1987年
- 33, 「長者原遺跡・向原遺跡・田島遺跡・吹上遺跡」『日田地区遺跡群発掘調査概報Ⅱ』 日田市教育委員会 1987年
- 34, 『九州横断自動車道建設に伴う発掘調査概報』 -日田地区- 大分県教育委員会 1987年
- 35, 『小迫辻原遺跡』 日田市教育委員会 1993年
- 36, 「昭和62年度文化財保護事業概況」『日田文化』31号 日田市教育委員会 1988年
- 37, 「葛原遺跡・田島遺跡・小迫辻原遺跡・宮ノ原遺跡・姫塚古墳」『日田地区遺跡群発掘調査概報Ⅲ』 日田市教育委員会 1988年
- 38, 『大分県内遺跡詳細分布調査概報』7号 大分県教育委員会 1988年
- 39, 土居和幸・友岡信彦「日田市朝日宮ノ原遺跡の中世墓」『おおいた考古』2号 大分県考古学会 1989年
- 40, 友岡信彦・土居和幸・行時志郎「日田玖珠地域の中世墓」『大分県地方史』137号 大分県地方史研究会 1990年
- 41, 『九州横断自動車道(日田地区)建設に伴う発掘調査概報Ⅴ』 -小迫辻原遺跡・小迫墳墓群- 大分県教育委員会 1988年
- 42, 「朝日宮ノ原遺跡Ⅱ・平島遺跡Ⅱ・小迫辻原遺跡Ⅱ」『日田地区遺跡群発掘調査概報Ⅳ』 日田市教育委員会 1989年
- 43, 『平島遺跡』 日田市埋蔵文化財調査報告書第3集 日田市教育委員会 1990年
- 44, 『大分県内遺跡詳細分布調査概報』8号 大分県教育委員会 1989年
- 45, 「昭和62年度文化財保護事業概況」『日田文化』32号 日田市教育委員会 1989年
- 46, 「一丁田遺跡・町野原遺跡・長者原遺跡Ⅲ・内河野遺跡・小迫辻原遺跡Ⅲ」『日田地区遺跡群発掘調査概報Ⅴ』 日田市教育委員会 1990年
- 47, 『小迫辻原遺跡発掘調査概報』 日田市教育委員会 1990年
- 48, 『平島遺跡B区』 日田市埋蔵文化財調査報告書第4集 日田市教育委員会 1991年
- 49, 「昭和63年度文化財保護事業概況」『日田文化』33号 日田市教育委員会 1990年
- 50, 「高瀬・琴平山・陣ヶ原・上野原・手崎遺跡」『一般国道210号線日田バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報』 大分県教育委員会 1990年
- 51, 「小迫辻原遺跡Ⅳ・惣田遺跡・吹上遺跡・日高遺跡」『日田地区遺跡群発掘調査概報Ⅵ』 日田市教育委員会 1991年
- 52, 『日田盆地の遺跡』 -平成2年度の発掘調査から- 日田市教育委員会 1991年

- 53, 『長者原田迎遺跡』 日田市埋蔵文化財発掘調査報告書第5集 日田市教育委員会 1992年
- 54, 『西有田赤ハゲ遺跡』 日田市埋蔵文化財発掘調査報告書第7集 日田市教育委員会
1992年
- 55, 『小迫辻原遺跡発掘調査概報Ⅱ』 日田市教育委員会 1991年
- 56, 「平成元年度文化財保護事業概況」『日田文化』34号 日田市教育委員会 1991年
- 57, 『慈眼山瀬戸口遺跡』－平成3年度国家公務員合同宿舎 日田住宅2号棟建設に伴う埋蔵
文化財発掘調査概報－ 大分県教育委員会 1992年
- 58, 『慈眼山遺跡（A地区）』－日田教職員住宅改築工事に伴う発掘調査報告書－ 大分県文化
財調査報告 第85輯 大分県教育委員会 1991年
- 59, 「佐寺原・原田・岩塚・治別当遺跡群」『九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査概報』
－日田玖珠間－第1集 大分県教育委員会 1991年
- 60, 「誠和神社裏遺跡・陣ヶ原辻原遺跡・陣ヶ原小原遺跡・上野第一遺跡（東原地区）」『一般
国道210号線日田バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報Ⅱ』 大分県教育委員会
1991年
- 61, 「小迫辻原遺跡Ⅴ・小見取遺跡・板屋遺跡」『日田地区遺跡群発掘調査概報Ⅶ』 日田市
教育委員会 1991年
- 62, 『上野切畑山遺跡』 日田市埋蔵文化財調査報告書第6集 日田市教育委員会 1992年
- 63, 「平成2年度文化財保護事業概況」『日田文化』35号 日田市教育委員会 1992年
- 64, 「後迫・大迫・白岩・下綾垣・瀬戸遺跡」『九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査概
報』－日田玖珠間－第2集 大分県教育委員会 1992年
- 65, 「手崎遺跡・大部遺跡」『一般国道210号線日田バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概
報Ⅲ』 大分県教育委員会 1992年
- 66, 『大分県埋蔵文化財年報』1991年度 大分県教育委員会 1993年



これまでの調査遺跡位置図 (1/75,000)

Ⅱ 平成4年度埋蔵文化財調査事業

1) 平成4年度の埋蔵文化財調査の概要

2) 発掘調査・確認調査の概要

3) 試掘調査・立会調査の概要

1) 平成4年度の埋蔵文化財調査の概要

昭和59年度以降毎年増え続けている日田市内での埋蔵文化財調査も本年度は市・県教委合わせて24ヶ所の遺跡で実施された。その中でも13ヶ所の遺跡での発掘調査においては、日田市の歴史を考える上で重要な遺跡の発見が相次ぐなど大きな成果があった年でもある。

萩鶴遺跡では古墳時代の鍛冶工房跡と関連する祭祀遺構が調査され、鉄鋌や鉄床石など鍛冶に関する一括資料が出土するなど全国的にみても一級の資料の発見があった。9年目の調査となった小迫辻原遺跡では環濠の追跡が行われ、次第に集落の全体像が判明しつつある。

一方、九州横断自動車道関係の調査では後迫遺跡で弥生時代前期～後期の大規模集落の調査が行われ、さらに尾漕遺跡では中世墳墓の副葬品として200枚を越える六道銭の出土があった。

また、210号線バイパス関係では継続して調査された上野第一遺跡で奈良時代の大規模集落が調査され、出土した転用硯などの遺物と合わせその性格が注目を集めた。

平成4年度の調査一覧および日田市が行った調査の概要は次の通りである。

(日田市教育委員会調査)

番号	遺跡名	所在地	調査原因	調査面積	調査年月日	備考
(発掘調査・確認調査)						
1	会所宮遺跡(C区)	大字田島字其田760-1他	道路建設	約1,500㎡	0506～0527	継続
2	小迫辻原遺跡(I,J,Q,R-2区)	大字小迫辻原他	地力増進	3,133㎡	0824～0330	継続
3	萩鶴遺跡	大字友田字萩鶴939他	リゾート	約6,000㎡	0928～0130	
4	史跡咸宜園遺跡	大字南豆田字中城100-1他	史跡整備	200㎡	1001～1030	
5	惣田遺跡	大字高瀬字惣田	道路建設	5,920㎡	1201～0219	継続
(試掘調査・立ち会い調査)						
6	慈眼山遺跡	大字北豆田字戸頃680他	工場建設	400㎡	0427～0515	
7	古金遺跡	大字日高字古金1753-2他	工場造成	300㎡	0827	
8	市ノ瀬遺跡	大字花月字井手ノ鶴他	圃場整備	140㎡	1019～1023	
9	求来里平島遺跡	大字求来里字平島	農道建設	70㎡	1026～1116	
10	徳瀬遺跡	大字友田字徳瀬256他	道路建設	660㎡	1102～0330	
11	小見取遺跡	大字渡里字小見取他	道路建設	140㎡	1108～1201	
12	町野原遺跡	大字求来里字町の原他	農道整備	100㎡	0215～0216	
13	日高遺跡	大字日高字珠手	農道建設	50㎡	0804	
14	狐塚遺跡	大字日高字中磯	道路建設	20㎡	0911	
15	町野原遺跡	大字東有田字上町野	農道建設	100㎡	1211	

(大分県教育委員会調査)

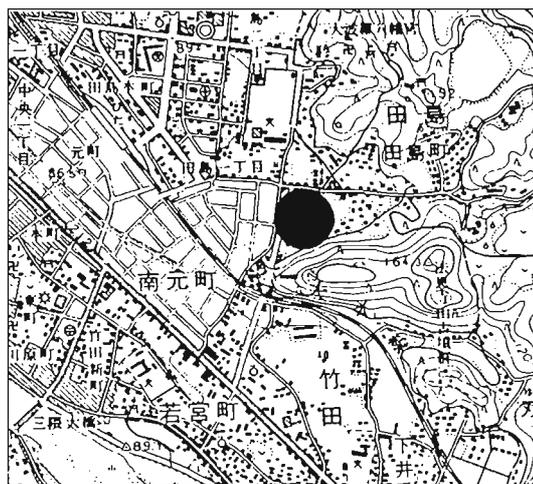
番号	遺跡名	所在地	調査原因	調査面積	調査年月日	備考
(発掘調査)						
1	後迫遺跡	大字渡里字後迫他	道路建設	17,000㎡	0407～0330	弥生・中世(集落)
2	日田条里遺跡群	大字三和字五反田他	〃	3,000㎡	1214～0202	古墳(集落)
3	夕田遺跡	大字西有田字夕田	〃	500㎡	1110～1204	古墳(集落)
4	尾漕遺跡	大字有田字尾漕	〃	12,000㎡	0529～1113	古墳・中世・近世(集落・墓地)
5	有田塚ヶ原遺跡	大字有田字塚ヶ原	〃	500㎡	0422～0330	古墳(墓地)
6	参勤交代道路	大字東有田字大石峠	〃	7,700㎡	0513～0827	近世(道路)
7	上野第一遺跡	大字上野字野間	〃	12,000㎡	0508～0228	奈良(集落)
8	北友田横穴墓群	大字友田字上原	砂防工事	約100㎡	04～	古墳(墓地)
(試掘調査)						
9	上野第二遺跡	大字上野	道路建設		0601～0725	

2) 発掘調査・確認調査の概要

1 ^{よそみや} 会所宮遺跡 (YMS)

所在地 大字田島字其田760-1 ほか
開発面積 3,000㎡
調査面積 約1,500㎡
調査期間 920506～920527
調査費 1,560千円(原因者負担)
調査年次 3次(C区)
遺跡の時代 古墳時代・中世
遺跡の内容 溝・包含層
担当者 行時志郎

—市道城町高瀬線道路建設に伴う発掘調査—



遺跡の位置図 (1/25,000)

遺跡の位置

遺跡は日田盆地東部の沖積地上に存在する。この近くに存在する遺跡としては、弥生時代の石棺が多数発見されている元宮原遺跡、会所山丘陵上に築かれた鳥羽塚古墳、後山古墳などがある。また平成2年度の調査では、今回の調査区南部に中世の柵列跡と見られる柱穴列と大溝が会所山丘陵と平行するように延びていることが確認されている。

調査の概要

今年度の調査では、調査区内を東西に走る溝が4条と水田層が確認された。溝のうち北部で確認された2条のうちの一つから、刻み目突帯をした甕や打製石器が出土しており、弥生時代前期の遺構と考えられる。また南部の溝の中からは内面へラ削りの特徴を持つほぼ完形の土師器甕が出土しており古墳時代の遺構と考えられる。またこれらの溝の上層には中国龍泉窯の青磁碗などを含む包含層が確認されたが、この層の底面は平坦で固くしまっていることなどから中世の水田跡の可能性が考えられる。

まとめ

今回の調査で弥生時代の遺構がこの地区周辺の沖積地上においても存在することが確認され、弥生時代には沖積地にも部分的に遺構の存在していることが確認された。



C区全景（南より）



C区1号溝完掘状況（西より）

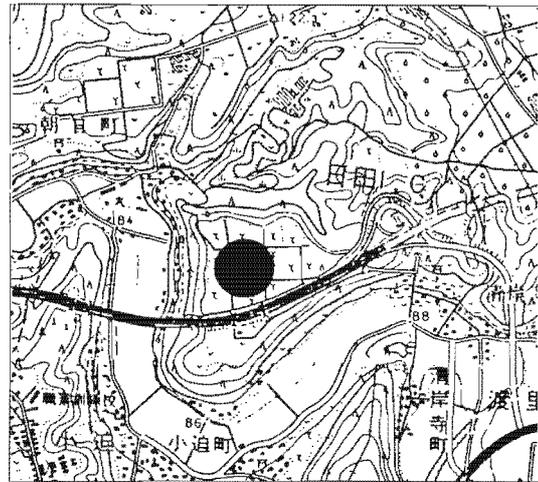


C区1号溝内遺物出土状況（北から）

2 ^{おざこつじばる} 小迫辻原遺跡 (OZT)

— 天地返し・遺跡確認に伴う発掘調査 —

所在地 大字小迫字辻原1211ほか
調査期間 920824～930330
開発面積 2,177㎡
調査面積 3,133㎡
調査費 9,015千円(国庫補助)
調査年次 6年次
遺跡の時代 弥生時代・古墳時代・古代・中世
遺跡の内容 集落・墓
担当者 土居和幸・森山敬一郎



遺跡の位置図 (1/25,000)

遺跡の位置

遺跡は日田盆地北部の台地群の一角にある標高約124 mの辻原台地上に位置する。この台地の南下には朝日川が蛇行しながら東流しており、沖積地との比高差は約40 mを測る。遺跡は昭和30年代にほ場整備事業が行われ平坦な地形となっているが、それ以前は緩やかな起伏のある地形であった。この遺跡の調査は九州横断自動車道建設に伴い昭和59年度から開始され、県・市教委合わせて9年間にもおよぶ調査が実施されている。

調査の概要

今回の調査はこれまで便宜的に呼んでいるQ、R区の発掘調査とI、J区での確認調査を実施した。Q、R-2区では弥生時代の竪穴住居7基、土坑67基、掘立柱建物1棟、古代の土壙墓1基、中世の掘立柱建物4棟、溝1条などを検出した。弥生時代の竪穴住居は如意形口縁の甕形土器から前期後半～中期初めと外面タタキの甕形土器から後期末頃の二時期がみられる。

J区のトレンチでは溝5条、竪穴住居2基、土坑5基、建物1棟などと縄文時代の包含層を検出した。このうち溝1条はこれまでに発見されている2号環濠の一部であることが確認できた。また、I区での2本のトレンチでは溝2条、竪穴住居2基を検出し、溝の1条はこれまでに発見されている1号条溝の一部であることが追認された。

まとめ

今回の調査で最も大きな成果は、これまで遺跡の西側で確認されていた2号環濠が独立して巡る濠であることを確証できたことである。しかも、この2号環濠の内側には布掘り状の小溝が平行して巡る可能性があり、さらに同時期とされる竪穴住居1基の検出できた。このことは同時期のこの遺跡での集落構造を考える上で重要となる。また、遺跡の南側(R-2区)で発見された古代の土壙墓は、やはりこの遺跡での同時期の集落を考える上で貴重な資料である。



小迫辻原遺跡の空中写真（北から）



P区発掘調査空中写真

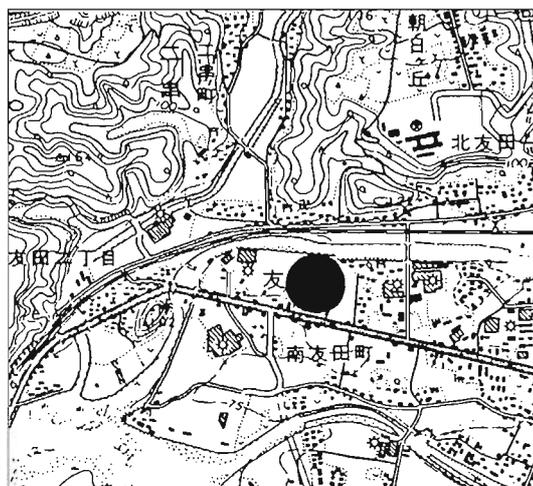


R-2区発掘調査空中写真

3 おぎつる 荻鶴遺跡 (OGI)

— レジャー施設造成に伴う発掘調査 —

所在地 大字友田字荻鶴939 他
開発面積 31,247㎡
調査面積 約6,000㎡
調査期間 920928～930130
調査費 9,176千円(原因者負担)
調査年次 1年次
遺跡の時代 古墳・中世・近世
遺跡の内容 工房・集落・水田
担当者 行時志郎



遺跡の位置図 (1/25,000)

遺跡の位置

遺跡は日田盆地の西部に位置し、花月川南岸の河岸段丘上に存在する。これまでにこの周辺では数多くの遺跡の存在が確認されている。花月川北岸の台地上には弥生時代から古墳時代初めにかけての集落である吹上遺跡、また台地から沖積地へ下る尾根上や斜面には古墳時代中期や後期に築かれたと考えられる片山石棺墓や北友田横穴墓群、そしてこれらの遺跡よりやや下流の河岸段丘上には古墳時代後期の三郎丸古墳や星隈横穴墓群が存在する。

調査の概要

古墳時代の遺構として、竪穴1基、溝状遺構、祭祀遺構などが確認された。このうち竪穴からは、鉄を鍛打する台である鉄床石や鍛冶炉跡が中央から検出された他、周囲からは数多くの鉄滓をはじめ高坏転用鑊羽口、鍛造剥片などの鍛冶に関連する多くの遺物が出土した。また、この竪穴の東部約8mの位置には、多数の手捏土器とともに鉄鋌や小鉄片、石製円盤が出土した。これらの遺構は出土遺物や土層から、5世紀前半から中頃でほぼ同時期と考えられる。

中世の遺構としては、15～16世紀の掘立柱建物11棟、土坑4基、大溝1条、溝3条などの他、水田跡なども確認された。水田跡は何層にもわたっているが、15世紀頃の水田跡について見ると、条里遺構の形式は見られず不定形であった。

まとめ

古墳時代の鍛冶工房跡は当時の現状をよく残していた。また祭祀遺構出土の鉄鋌はここで鍛冶を行うために持ち込まれた鉄素材の可能性が高い。これらの遺構・遺物から当時の鍛冶がどのような素材を用いてどのような方法で鉄器を製作していたのかを知る具体的な手掛かりとなった。



A地点全景（真上から）



B地点全景（真上から）

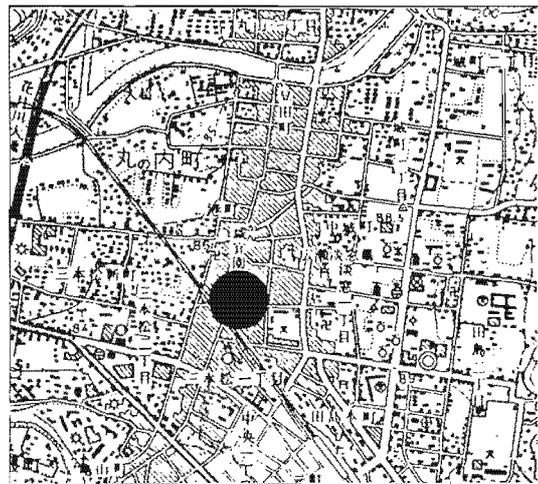


B地点祭祀遺構遺物出土状況（北から）

4 史跡咸宜園跡 (KAG)

— 史跡整備に伴う確認調査 —

所在地 大字南豆田字中城100-1 ほか
調査期間 921001～921030
開発面積 ———
調査面積 200㎡
調査費 657千円(市費)
調査年次 1年次
遺跡の時代 古代・中世・近代
遺跡の内容 集落
担当者 土居和幸・森山敬一郎



遺跡の位置図 (1/25,000)

遺跡の位置

史跡咸宜園跡は日田盆地のほぼ中心部に位置し、江戸時代の儒学者廣瀬淡窓が創設した私塾として知られ現在国史跡に指定されている。今回この咸宜園跡の保存整備実施計画作成に伴い、現存する建物の一つである遠思楼の当初の位置の確認と、咸宜塾を構成していた東塾、講堂跡の諸施設の遺構確認を目的とした調査を実施した。

調査の概要

調査では大正年間に書かれた絵図を参考に、遠思楼跡(1トレンチ)、講堂跡(2・3トレンチ)、東塾跡(4トレンチ)、講堂に続くと考えられる道跡(5トレンチ)の各想定地に5本のトレンチを設定しそれらの確認作業を行った。

その結果、1トレンチでは奈良時代の柱跡や中世の掘立柱建物・溝や昭和の戦前の建物等、2トレンチでは昭和初期の柔剣道場跡、3トレンチでは中世の土坑・溝・柱穴や近・現代の井戸跡・土坑、4トレンチでは中世の溝など、5トレンチでは遺構は確認できなかった。

遺物は各トレンチで確認された遺構から須恵器、土師器、青磁器などが出土したほか、咸宜園塾時代に相当すると考えられる染付が出土した。

まとめ

今回の調査では目的であった咸宜園塾に関連する諸施設の遺構は確認できなかった。このことは後の現代にその敷地内に建物が建てられたため当時の遺構を破壊してしまったことが要因とされ、また今回のような部分的な調査方法ではその確認が容易でなかったとも考えられる。

調査の目的は達成することができなかったが、これまでわかっていなかった古代や中世の遺跡が咸宜園周辺に存在することが確認されたのは成果といえよう。



史跡咸宜園跡空中写真



1トレンチ発掘調査空中写真



3トレンチ発掘調査空中写真

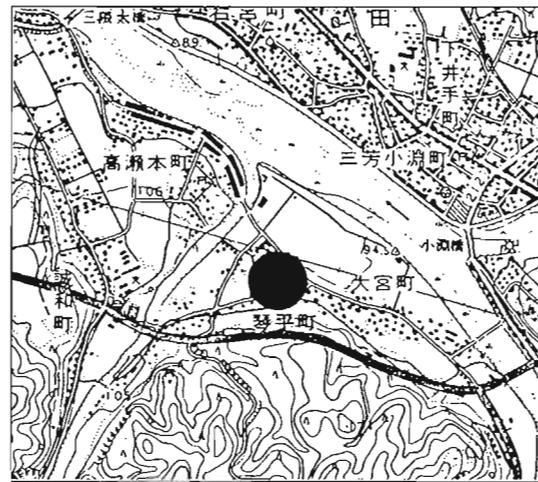


4トレンチ発掘調査空中写真

5 ^{そうだ}惣田遺跡 (SOD)

—市道平原捨ノ平線道路建設に伴う発掘調査—

所在地 大字高瀬字惣田
調査期間 921201～930219
開発面積 5,920㎡
調査面積 5,920㎡
調査費 2,126千円(原因者負担)
調査年次 2年次
遺跡の時代 弥生時代・古代・中世
遺跡の種類 集落・包含層
担当者 土居和幸・森山敬一郎



遺跡の位置図 (1/25,000)

遺跡の位置

遺跡は、日田盆地南部の大山川と高瀬川の合流点にあたる高瀬川右岸の標高約96mの河岸段丘上に位置する。遺跡の西側には古墳時代後期に築造されたとされる惣田塚古墳があり、また東側には縄文・古墳・古代の複合集落遺跡である手崎遺跡などが存在する。

調査の概要

調査は道路予定地内の水田区割りを利用して便宜的に西側より1～10区に分け、1区より調査を進めた。1区では中世と考えられる柱穴と、弥生土器や土師器などの土器を一括して含む包含層を確認した。3区では重複する3基の竪穴住居と溝1条、柱穴を検出した。竪穴住居にはカマドが付設されていて、出土した須恵器より7～8Cの所産と考えられる。溝は幅1m程度で、溝内より出土した少量の土器からすると、竪穴住居と同時期の可能性がある。4～6区では柱穴のほか溝1条を検出している。この溝はその規模や土層の堆積状況、少量の土器から先の3区での溝に類似点が多く同一の溝の可能性がある。7～9区では多数の柱穴を検出している。10区では多数の柱穴のほか溝1条を検出している。

まとめ

調査区に隣接して惣田塚古墳が存在することより関連する遺構の発見が想定されたが、該当期の遺構は確認できなかった。

また、今回の調査では多数の柱穴や竪穴住居、溝が確認されているものの、遺物の出土量は少なくそれぞれの遺構の年代決定も難しい。特に柱穴の性格や年代決定は、今後の周辺調査に期待するところが大きい。

惣田遺跡空中写真（南から）



発掘調査区空中写真



3区空中写真

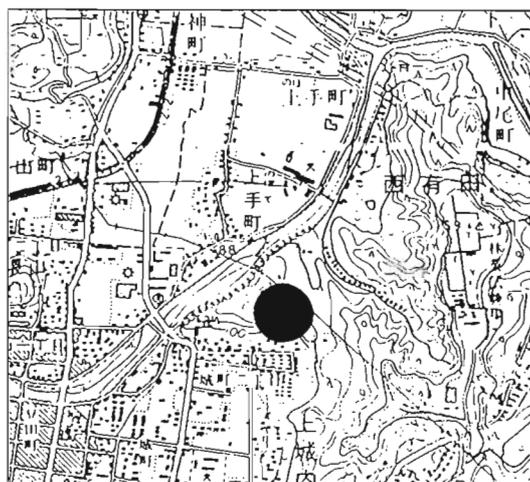


3) 試掘調査・立会調査の概要

6 慈眼山遺跡

—工場建設に伴う試掘調査—

所在地 大字北友田字戸頃680ほか
調査期間 920427～920515
開発面積 17,486㎡
調査面積 400㎡
調査費 750千円（原因者負担）
遺跡の時代 古代・中世
遺跡の種類 集落・山城
担当者 土居和幸・森山敬一郎



遺跡の位置図（1/25,000）

調査の概要

遺跡は日田盆地東部の標高約120 mの丘陵上に位置する。この丘陵は慈眼山とも呼ばれ中世期の日田郡司大蔵氏の居城（鷹城）として古くから知られていた。このため丘陵一体には城山など関連する多くの小字名が残っている。丘陵下には慈眼山瀬戸口遺跡があり、これまで3回の調査が行われ中世居館の堀の一部などが発見されている。

今回の調査は計画予定地にグリッドおよびトレンチを35ヶ所設定し、主に地下遺構の残存状況の確認を中心に調査を行った。その結果、柱跡の検出や多量の土師器や輸入陶磁器などが出土した。試掘坑の数が限定されたため、建物の規模や内容などの確認までには至らなかったものの、郭などが地表面に良好に残ることを考えると今後の発掘調査やその方法によってはこの城の規模や内容などを十分に把握できると考えられる。



試掘調査状況

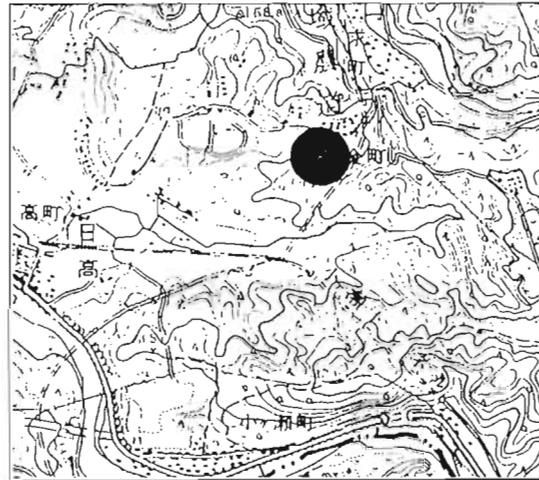


試掘調査状況

7 ^{こがね}古金遺跡

—工場用地造成に伴う試掘調査—

所在地 大字日高字古金 1753-2 ほか
調査期間 920827
開発面積 9,900㎡
調査面積 300㎡
調査費 機械 1台分(原因者負担)
遺跡の時代 _____
遺跡の種類 _____
担当者 土居和幸



遺跡の位置図 (1/25,000)

調査の概要

遺跡は日田盆地東部の標高150 mの丘陵西側の裾部に位置し、周辺は浅い谷状の地形を形成している。遺跡の周辺には装飾古墳として知られている法恩寺山古墳群やダンワラ古墳、東寺原遺跡などの遺跡が多数存在している。また、遺跡の背後の丘陵上には4基の円墳、さらに西側斜面には横穴墓の存在も確認されている。

こうした周囲の状況と今回の調査予定地の立地条件から横穴墓の存在が考えられたため、調査では機械を使って横穴墓の存在が想定される斜面などを中心に遺構の確認を行った。

その結果、横穴墓などの遺構の検出はなく、遺物の出土もなかった。



試掘調査状況

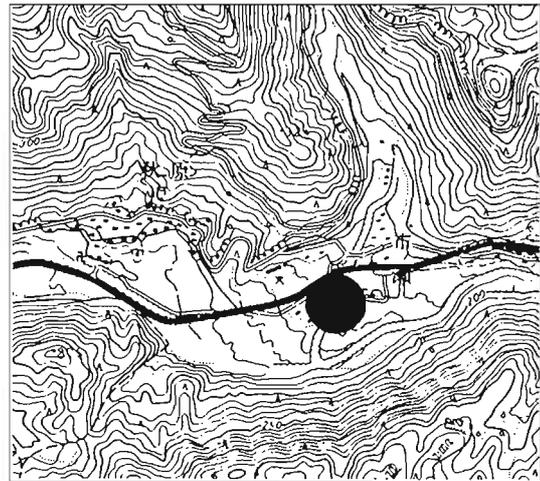


試掘調査状況

8 市ノ瀬遺跡

ー 県営圃場整備事業（市ノ瀬地区）に伴う試掘調査ー

所在地 大字花月字井手ノ鶴
調査期間 921019～921023
開発面積 40,000㎡
調査面積 140㎡
調査費 231千円（国庫補助）
遺跡の時代 _____
遺跡の種類 _____
担当者 土居和幸・森山敬一郎



遺跡の位置図 (1/25,000)

調査の概要

遺跡は日田盆地北部の市ノ瀬川と花月川の合流点にあたる花月川右岸の標高約170 mの段丘上に位置する。遺跡の周囲は標高約504 mの大石峠や伏木峠が迫り、深く狭い谷を形成している。これまでところ遺跡の周辺では遺跡の確認例がなく、遺跡の近くに江戸時代の日田永山布政所と四日市陣屋を結ぶ代官道路の名残としての石畳道が残っている。

調査では圃場整備事業予定地内にトレンチを14ヶ所設定して遺構の確認を行った。各試掘坑掘り下げの結果は、水田下から拳大から大きなものでは1 mを越えるような河原石が砂層に混じってみられた。このため遺構の検出はなく、遺物もローリングをうけた青磁碗、土師器などが少量出土した程度である。

こうした調査の結果から、圃場整備事業予定地内が市ノ瀬川と花月川の合流点にあたり、また各試掘坑の状況からして、今回の調査地区は市ノ瀬川と花月川の氾濫原と考えられる。



市ノ瀬遺跡近景

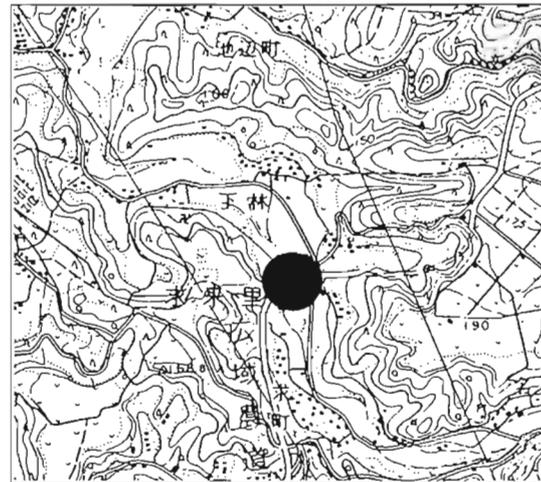


試掘調査状況

くくりひらしま 9 求来里平島遺跡

—広域農道建設に伴う試掘調査—

所在地 大字求来里字平島
調査期間 921026～921116
開発面積 16,425㎡
調査面積 70㎡
調査費 195千円(国庫補助)
遺跡の時代 古墳時代
遺跡の内容 集落
担当者 土居和幸・森山敬一郎



遺跡の位置図(1/25,000)

調査の概要

遺跡は日田市の北東部の標高約128 m、小河川である求来里川河岸段丘上に位置する。遺跡の東側台地上には町野原遺跡や円墳1基、北側丘陵上にはガンダ古墳群などが存在している。

調査では求来里川を東西に横断する路線予定地内に試掘坑を7本設定し遺構の確認を行った。その結果、求来里川を挟む西側の試掘坑では遺構の確認はできず、数点の黒曜石の石器が出土した程度であった。しかしその東側の試掘坑では、遺構としては竪穴式住居や柱穴などが確認され、完形の土師器1点を含む土器や石器の出土があった。こうした調査結果から、路線予定地のうち求来里川を挟む東側には古墳時代の集落が存在することが予想された。

このため、遺跡の取扱について大分県日田地方振興局耕地課と協議を行い、路線変更が不可能な求来里川を挟む東側の地点を次年度に発掘調査を行うこととした。



求来里平島遺跡近景

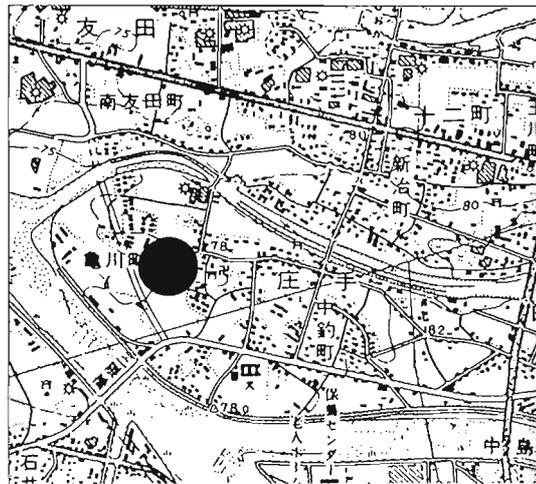


試掘調査状況

10 とくせ 徳瀬遺跡

—市道亀川山田線道路建設に伴う試掘調査—

所在地 大字友田字徳瀬256 ほか
開発面積 4,380㎡
調査面積 660㎡
調査期間 1次…921102～921111
2次…930301～930330
調査費 1次…139千円（国庫補助）
2次…2,251千円（原因者）
遺跡の時代 弥生・古墳時代
遺跡の種類 集落・墓地
担当者 行時志郎

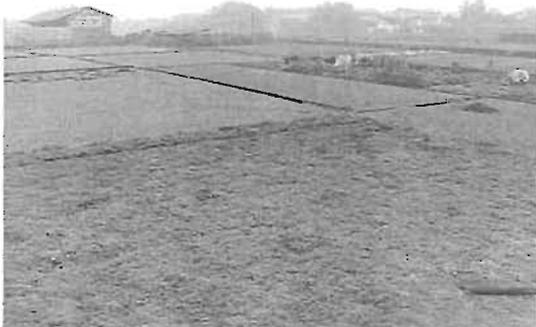


遺跡の位置図 (1/25,000)

調査の概要

徳瀬遺跡は日田市中央部、三隈川と庄手川に挟まれた中洲の沖積微高地上に存在する。昭和60年度に一度調査され、この時にはトレンチ内から数多くの弥生土器や土師器が出土するとともに炉跡や溝も確認され、竪穴住居跡などの遺構の存在も指摘されていた。

調査は平成5年度工事予定の約460 mの区間を対象に行った。このうち遺構の存在が予想される微高地上は全面の遺構検出を行い、またその周辺の遺構の存在も確認するため、現在水田地帯の広がる低地部を中心に2 m×5 mのトレンチを6本設定した。低地部は昭和28年の大水害をはじめとしてこれまで何度も水没しているためか、遺構の存在は確認されなかったが、微高地上では弥生時代から古墳時代にかけての竪穴住居跡や石棺墓などが確認されたため、平成5年度に本調査を実施することになった。



徳瀬遺跡遠景

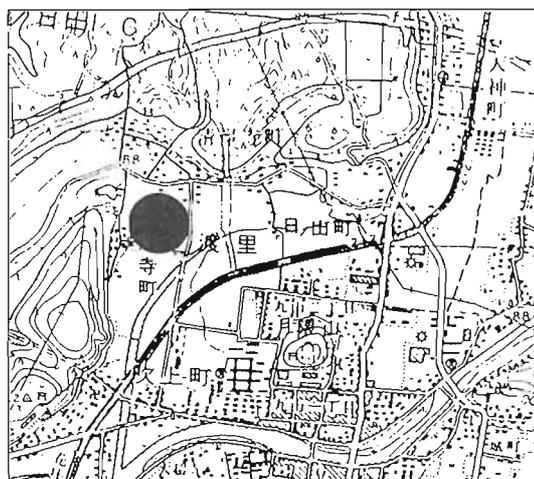


試掘調査状況

11 ^{こみどり}小見取遺跡

—市道熊取小迫線道路改良事業に伴う試掘調査—

所在地 大字大字渡里字小見取
調査期間 921108～921201
開発面積 6,000㎡
調査面積 140㎡
調査費 298千円(国庫補助)
遺跡の時代 _____
遺跡の種類 _____
担当者 土居和幸・森山敬一郎



遺跡の位置図(1/25,000)

調査の概要

遺跡は日田盆地北部の渡里川左岸の標高約84mの沖積地に位置する。遺跡の周辺には日田条里の範囲が広がっており、西側の台地上には吹上遺跡、北側の台地や丘陵上には小迫辻原遺跡や草場第二遺跡など日田市を代表する遺跡がみられる。

今回の調査は昨年度調査の北側にあたり、特に台地に近い場所を中心にグリッドおよびトレンチを14ヶ所設定し遺構の確認を行った。その結果、試掘坑によっては泥炭層の堆積する場所や、水田下にすぐ河原石が広がる礫層あるいは砂層といった場所がみられ、地点によってまちまちな状況であった。このため遺構の存在は確認できず、また遺物は調査予定地北側の台地に近い試掘坑からローリングをうけた弥生土器や須恵器、土師器などが出土した程度である。

こうした調査結果から、遺跡の大半は旧河川やその氾濫源と考えられるため、発掘調査を行わず工事が実施された。



小見取遺跡近景

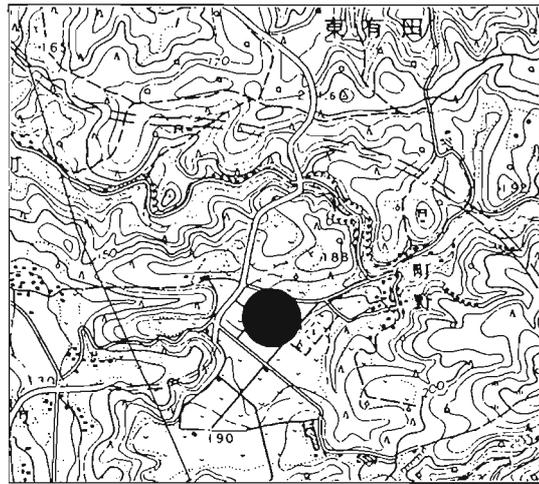


試掘調査状況

12 まちのぼる 町野原遺跡

— 県営畑地帯総合整備事業（三芳地区）に伴う試掘調査 —

所在地 大字求来里字町の原ほか
開発面積 600㎡
調査面積 100㎡
調査期間 930215～930216
調査費 142千円（国庫補助）
遺跡の時代 縄文・古墳時代
遺跡の種類 散布地
担当者 行時志郎



遺跡の位置図（1/25,000）

調査の概要

町野原遺跡は日田市東部、通称町野原台地上に位置する。これまでに台地上からは縄文時代の黒曜石片や、古墳時代の土師器や須恵器が表採されており、周知遺跡として確認されていた。平成元年度には広域営農団地農道整備事業に伴い、台地北部を中心に事前の試掘調査が実施されたが遺構の存在は確認されていない。

今年度は町野原台地の県営畑地帯総合整備事業にかかる農道舗装工事に伴い、工事箇所にあたる台地南部を中心に機械による遺構の確認調査を行った。

確認調査は、来年度の工事を予定されている区間約600㎡を対象に、道路内でもともと本来の地形をとどめている所を選んで行ったが遺構・遺物の出土は認められなかった。



町野原遺跡遠景



試掘調査状況

13 ^{ひだか} 日高遺跡

所在地 大字日高字秣手

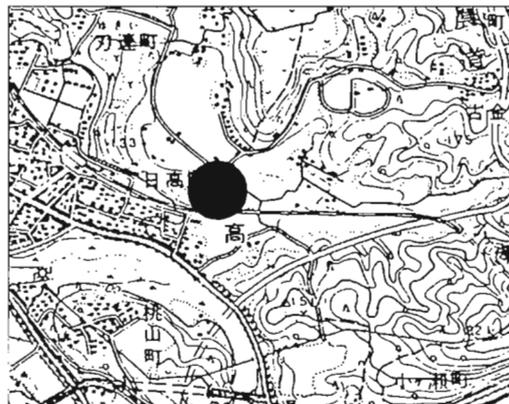
調査期間 920804

開発面積 2,500㎡

担当者 土居和幸

調査の概要 道路拡張部分に機械を入れて調査を行ったが、遺構の確認と遺物の出土はなかった。

—広域農道建設に伴う立会い調査—



遺跡の位置図 (1/25,000)

14 ^{きつねづか} 狐塚遺跡

所在地 大字日高字中磯

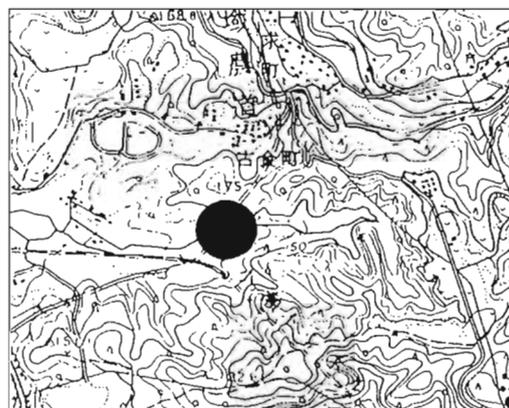
調査期間 920911

開発面積 3,000㎡

担当者 土居和幸

調査の概要 工事予定地域周辺に古墳が存在することから、機械を使って調査を行ったが遺構は確認されなかった。

—市道古金線改良事業に伴う立会い調査—



遺跡の位置図 (1/25,000)

15 ^{まちなぼる} 町野原遺跡

所在地 大字東有田字上町野

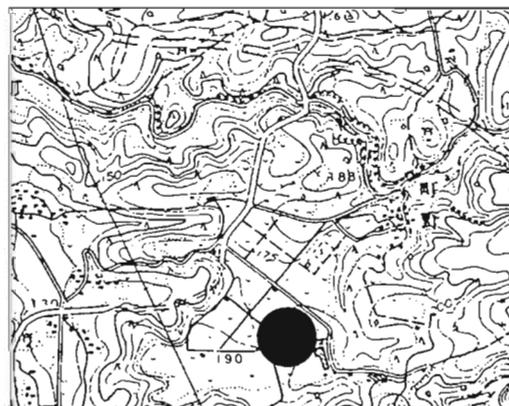
調査期間 921211

開発面積 500㎡

担当者 土居和幸

調査の概要 旧石器時代の散布地にあたることから機械を使って慎重なる調査を行ったが石器の出土はなかった。

—県営畑地総合土地改良事業に伴う立会い調査—



遺跡の位置図 (1/25,000)



平成4年度 埋蔵文化財調査位置図 (1/50,000)

○ 市教育委員会 ◇ 県教育委員会

Ⅲ 平成4年度埋蔵文化財普及・啓発事業

1) 現地説明会の紹介

2) 広報活動

3) 刊行物の紹介

1) 遺跡説明会の紹介

平成5年1月23日、寒風の吹き荒ぶ中、上野第一遺跡の発掘調査現地説明会が大分県教育委員会主催のもとで午後1時から開催された。これには日田市内の方々を中心に200人を越える見学者が訪れた。

説明は調査を担当した大分県教育庁文化課田中祐介主任によって行われ、平成4年度に調査された奈良時代の掘立柱建物跡や竪穴住居跡、道状遺構それに水田跡がそれぞれ詳しく紹介された。また出土遺物では平成2年度の発掘調査での出土品の他、平成2年度の発掘調査で出土し話題となった「豊馬豊馬」と線刻された石製品や硯に転用したと見られる須恵器の坏身などが合わせて展示されていた。



上野第一遺跡現地説明会風景



上野第一遺跡現地説明会風景

2) 広報活動

一日田市教育委員会関係一



(上) 9月6日掲載
小迫辻原遺跡の発掘調査開始の記事
(西日本新聞社)

(下) 1月7日掲載
小迫辻原遺跡の今後の保存に関する
内容の記事 (西日本新聞社)



(上) 2月15日号掲載
荻鶴遺跡の発掘調査報告に関する
内容の記事 (広報ひた)



(上) 10月6日掲載
史跡咸宜園跡の確認調査開始の記事
(西日本新聞社)

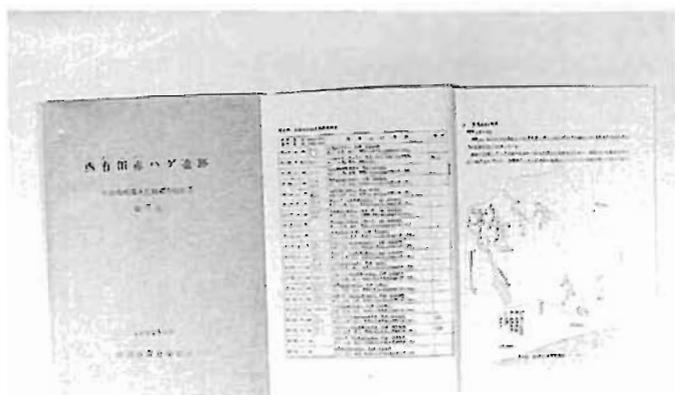


(右) 5月30日掲載
ガランドヤ古墳群が国史跡に答申
された内容記事 (朝日新聞社)

3) 刊行物の紹介

①西有田赤ハゲ遺跡発掘調査報告書

ゴルフ場造成工事に伴い行われた発掘調査の記録。A地点で確認された4～5世紀の土坑をはじめB地点で確認された縄文時代後・晩期の包含層や古墳時代後期の堅穴住居跡などの遺構および出土した遺物などの図面や写真もあわせて掲載している。体裁B5版・総ページ数(本文58ページ、写真図版14ページ)



②日田地区遺跡群発掘調査概報Ⅶ

近年急増している開発事業に伴い埋蔵文化財の保護を図る目的で事前に国庫補助事業により試掘調査や発掘調査を行った遺跡の概要報告をまとめている。

所収遺跡—小迫辻原遺跡(Ⅵ)・小見取遺跡(Ⅱ)・市ノ瀬遺跡・未来里平島遺跡・町野原遺跡・袴瀬遺跡—

体裁B5版・総ページ数33ページ



③小迫辻原遺跡パンフレット

九州横断自動車道に伴う発掘調査で発見され、注目を集めた古墳時代初頭の環濠居館を始め、その後の調査で新たに確認された環濠集落や奈良・中世の建物群などを全ページオールカラー写真でわかりやすく説明している。

体裁B5版・総ページ数21ページ



IV 受領図書一覽

IV) 平成4年度埋蔵文化財関係刊行物の寄贈一覧

	書名	寄贈者	刊行年
	静岡県		
1	長伏上塩辛田遺跡(倉庫建設に伴う埋蔵文化財発掘調査)	三島市教育委員会	1992
2	上才塚遺跡第1地点(中高層住宅建設に伴う発掘調査報告書)	〃	〃
3	上才塚遺跡第2地点(日栄アパレル建設に伴う発掘調査報告書)	〃	〃
4	玉川塚田遺跡(静岡県自動車(株)営業所建設に伴う発掘調査報告書)	〃	〃
5	三島市埋蔵文化財発掘調査報告Ⅰ -初音ヶ原A地点第3地点・加茂向山遺跡・茶白山遺跡・山神社塚原古墳群-	〃	〃
6	史跡山中城跡Ⅷ(平成2・3年度発掘調査・環境整備事業概報)	〃	〃
7	三島スプリングスC.Cゴルフ場内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ -中村C遺跡・徳倉片平山B遺跡・徳倉片平山J遺跡-	〃	〃
8	三島市文化財年報-第4号-	〃	〃
	三重県		
9	蛸田古墳	鈴鹿市教育委員会	1992
10	伊勢国分寺跡～尼寺跡推定地の調査～	〃	〃
	滋賀県		
11	大津市埋蔵文化財調査報告書(17)-山/神遺跡発掘調査報告書Ⅱ-	大津市教育委員会	1992
12	大津市埋蔵文化財調査報告書(20)-上高砂遺跡発掘調査報告-	〃	〃
	京都府		
13	京都府埋蔵文化財情報第43号	京都府埋蔵文化財調査研究センター	1992
14	京都府埋蔵文化財情報第45号	〃	〃
15	京都府埋蔵文化財情報第46号	〃	〃
16	京都府埋蔵文化財情報第47号	〃	1993
17	10年のあゆみ(1981-1991)	〃	1992
	大阪府		
18	桜井谷窯跡2-23号窯	豊中市教育委員会	1992
19	摂津豊中大塚古墳第3次調査概要報告書	〃	〃
20	豊中市埋蔵文化財発掘調査概報 1989年度	〃	1990
21	豊中市埋蔵文化財発掘調査概報 1991年度	〃	1992
22	文化財ニュースNO.16	〃	〃
23	武器・武具からみた5世紀の日本と朝鮮	〃	〃
24	とよなか300万年	〃	〃
25	文化財年報11	(株)枚方市文化財研究調査会	1992
26	文化財年報12	〃	〃
27	ひらかた文化財だより	〃	〃
	兵庫県		
28	下小名田遺跡-その1-(都市計画道路北神中央線埋蔵文化財調査概要)	淡神文化財協会	1992
29	下小名田遺跡-その2-(都市計画道路北神中央線埋蔵文化財調査概要)	〃	〃
30	下小名田遺跡-その3-(都市計画道路北神中央線埋蔵文化財調査概要)	〃	〃
31	淡神文化財協会ニュース 第21号	〃	〃

	書名	寄贈者	刊行年
32	のじぎく文化財だより 創刊号～12号	のじぎく文化財保護研究財団	1992
	奈良県		
33	埋蔵文化財ニュース 第75号-全国文化財データベースについて-	奈良国立文化財研究所	1992
34	埋蔵文化財ニュース 第76号-1988年度刊行埋蔵文化財発掘調査報告書に関する情報調査-		"
35	よみがえる二上山の3つの石	香芝市二上山博物館	"
36	榛原町内遺跡発掘調査報告書 1991年度	榛原町教育委員会	1992
	山口県		
37	山口大学構内遺跡調査研究年報X	山口大学埋蔵文化財資料館	1992
	福岡県		
38	年報第11号	福岡市埋蔵文化財センター	1992
39	埋蔵文化財年報vol. 5 1990年度	福岡市教育委員会	1992
40	三苫遺跡群1次調査の報告 福岡市埋蔵文化財調査報告書第271集	"	"
41	立花寺1 福岡市埋蔵文化財調査報告書第272集	"	"
42	箱崎3 福岡市埋蔵文化財調査報告書第273集	"	"
43	堅粕1 福岡市埋蔵文化財調査報告書第274集	"	"
44	麦野A 福岡市埋蔵文化財調査報告書第275集	"	"
45	雑餉隈遺跡1 福岡市埋蔵文化財調査報告書第276集	"	"
46	南八幡遺跡2 福岡市埋蔵文化財調査報告書第277集	"	"
47	警弥郷B遺跡 福岡市埋蔵文化財調査報告書第278集	"	"
48	大橋E遺跡(3次調査の報告) 福岡市埋蔵文化財調査報告書第279集	"	"
49	博多25(第38次調査の報告) 福岡市埋蔵文化財調査報告書第280集	"	"
50	博多27 福岡市埋蔵文化財調査報告書第282集	"	"
51	博多28 福岡市埋蔵文化財調査報告書第283集	"	"
52	博多29 福岡市埋蔵文化財調査報告書第284集	"	"
53	博多30 福岡市埋蔵文化財調査報告書第285集	"	"
54	博多31 福岡市埋蔵文化財調査報告書第286集	"	"
55	比恵遺跡群(11) 福岡市埋蔵文化財調査報告書第289集	"	"
56	那珂4 福岡市埋蔵文化財調査報告書第290集	"	"
57	那珂5(第10・12・14・16・17・21次)調査 福岡市埋蔵文化財調査報告書第291集	"	"
58	那珂6 福岡市埋蔵文化財調査報告書第292集	"	"
59	福岡城肥前堀(第3次調査報告) 福岡市埋蔵文化財調査報告書第293集	"	"
60	第福岡城肥前堀(第4次調査報告) 福岡市埋蔵文化財調査報告書第294集	"	"
61	原遺跡6 福岡市埋蔵文化財調査報告書第295集	"	"
62	飯倉A遺跡 福岡市埋蔵文化財調査報告書第296集	"	"
63	野茶遺跡 福岡市埋蔵文化財調査報告書第297集	"	"
64	瀬戸口古墳群 福岡市埋蔵文化財調査報告書第298集	"	"
65	カルメル修道院内遺跡Ⅱ 福岡市埋蔵文化財調査報告書第299集	"	"
66	草場古墳群 福岡市埋蔵文化財調査報告書第301集	"	"
67	田村遺跡Ⅶ 福岡市埋蔵文化財調査報告書第302集	"	"
68	吉武遺跡群Ⅴ 福岡市埋蔵文化財調査報告書第303集	"	"
69	太田遺跡Ⅲ 福岡市埋蔵文化財調査報告書第304集	"	"
70	拾六町平田遺跡 福岡市埋蔵文化財調査報告書第305集	"	"
71	徳永遺跡Ⅱ 福岡市埋蔵文化財調査報告書第306集	"	"

	書名	寄贈者	刊行年
72	有田・小田部(第15集) 福岡市埋蔵文化財調査報告書第307集	福岡市教育委員会	1992
73	有田・小田部(第16集) 福岡市埋蔵文化財調査報告書第308集	〃	〃
74	山ノ鼻1号墳 福岡市埋蔵文化財調査報告書第309集	〃	〃
75	入部Ⅲ 福岡市埋蔵文化財調査報告書第310集	福岡市教育委員会	1992
76	脇山Ⅲ 福岡市埋蔵文化財調査報告書第311集	〃	〃
77	脇山Ⅳ 福岡市埋蔵文化財調査報告書第312集	〃	〃
78	野方遺跡 福岡市埋蔵文化財調査報告書第313集	〃	〃
79	板付遺跡 福岡市埋蔵文化財調査報告書第314集	〃	〃
80	鴻臚館跡Ⅱ 福岡市埋蔵文化財調査報告書第315集	〃	〃
81	三沢古墳群Ⅰ 上巻、下巻 小都市文化財調査報告書第62集	小都市埋蔵文化財センター	1991
82	北松尾口遺跡Ⅱ地点 小都市文化財調査報告書第63集	〃	〃
83	小郡若山遺跡Ⅱ 小都市文化財調査報告書第69集	〃	〃
84	横隈狐塚遺跡Ⅴ 小都市文化財調査報告書第70集	〃	〃
85	大板井京塚遺跡 小都市文化財調査報告書第71集	〃	〃
86	三国地区遺跡群(力武官/前遺跡・三沢畝道町遺跡の調査) 小都市文化財調査報告書第72集	〃	〃
87	小郡野口遺跡 小都市文化財調査報告書第73集	〃	〃
88	一ノ口遺跡Ⅰ地点 小都市文化財調査報告書第74集	〃	〃
89	福童山の上遺跡 小都市文化財調査報告書第75集	〃	〃
90	大板井遺跡Ⅹ 小都市文化財調査報告書第76集	〃	〃
91	北松尾口遺跡Ⅲ・Ⅳ地点 小都市文化財調査報告書第77集	〃	1992
92	津古片曾葉遺跡 小都市文化財調査報告書第78集	〃	〃
93	苅又地区遺跡群 小都市文化財調査報告書第80集	〃	〃
94	津古内畑遺跡6 小都市文化財調査報告書第81集	〃	〃
95	室町遺跡-小倉鋳物師に関する遺跡の調査-北九州市埋蔵文化財調査報告書第95集	(財)北九州市教育文化事業団	1992
96	太宰府市の文化財 第10集 -宮ノ本遺跡-	太宰府市教育委員会	1992
97	太宰府市の文化財 第18集 -大町遺跡-	〃	〃
98	大宰府条坊跡112次 筑紫野市文化財調査報告書第31集	筑紫野市教育委員会	1992
99	大宰府条坊跡113次 筑紫野市文化財調査報告書第32集	〃	〃
100	大宰府条坊跡114次 筑紫野市文化財調査報告書第33集	〃	〃
101	弥生時代の墓性を考える	宗像市教育委員会	1992
102	穂波地区遺跡群 第2集 穂波町文化財調査報告書第5集	穂波町教育委員会	1990
103	穂波地区遺跡群 第3集 穂波町文化財調査報告書第6集	〃	1991
104	穂波地区遺跡群 第4集 穂波町文化財調査報告書第7集	〃	1992
105	山田西遺跡 那珂川町文化財調査報告第28集	那珂川町教育委員会	1992
107	カクチガ浦遺跡群Ⅱ 那珂川町文化財調査報告第29集	〃	〃
108	観音山古墳群Ⅳ 那珂川町文化財調査報告第30集	〃	〃
	今光鷹取遺跡 那珂川町文化財調査報告第31集	〃	〃
	佐賀県		
109	志波屋六本松乙遺跡 九州横断道関係埋蔵文化財発掘調査報告書(13)	佐賀県教育委員会	1991
110	都谷遺跡 九州横断道関係埋蔵文化財発掘調査報告書(14)	〃	〃
111	よみがえった久保泉丸山遺跡	佐賀市教育委員会	1992
112	貴別当神社遺跡Ⅲ 千代田町文化財調査報告書第15集	千代田町教育委員会	1992
113	本掘朝日遺跡Ⅳ・Ⅴ区	神埼町教育委員会	1992
114	中園遺跡Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ区	〃	〃
115	本村籠遺跡・於保三本松遺跡 大和町文化財調査報告書第10集	大和町教育委員会	1990

	書名	寄贈者	刊行年
116	肥前国分寺跡－第2次調査－ 大和町文化財調査報告書第11集	大和町教育委員会	1990
117	東山田一本杉、西山田天神、西山田二本松、西山田三本松遺跡 大和町文化財調査報告書第13集	〃	1991
118	小川遺跡－2次調査－ 大和町文化財調査報告書第14集	〃	〃
119	平成2年度町内遺跡確認調査 大和町文化財調査報告書第16集	〃	1992
120	尼寺一本松遺跡－第2次調査－ 大和町文化財調査報告書第17集	〃	〃
121	築山経塚－調査概要報告書－ 大和町文化財調査報告書第18集	〃	〃
122	佐賀県有田町谷窯跡の発掘調査	有田町歴史民俗資料館	1991
123	楠木谷窯・天神町窯・外尾山窯(町内古窯跡群詳細分布調査報告書第5集)	〃	1992
熊本県			
124	上高橋高田遺跡(第1次調査区発掘調査概報Ⅰ)	熊本市教育委員会	1992
大分県			
125	会下遺跡・的場2号墳・塩屋伊豫野遺跡 (大分空港道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1)大分県文化財調査報告第83輯	大分県教育委員会	1991
126	下郷桑苗遺跡Ⅱ(七歩川河川改修工事に伴う発掘調査報告書)大分県文化財報告第89輯	〃	1992
127	伊藤田窯跡群 一般国道10号線中津 ^ハ イ ^ス 埋蔵文化財発掘調査報告書(4)	〃	〃
128	慈眼山瀬戸口遺跡(国家公務員合同宿舍日田住宅2号棟建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報)	〃	〃
129	大分県内遺跡詳細分布調査概報11	〃	〃
130	植田市遺跡Ⅳ(七瀬川河川改修工事に伴う発掘調査概報)	〃	〃
131	国東六郷山本山本寺－智恩寺発掘調査報告－ 大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館報告書第9集	宇佐風土記の丘歴史民俗資料館	1992
132	大分市埋蔵文化財調査年報2(平成2年度)	大分市教育委員会	1991
133	国指定史跡豊後国分寺跡環境整備報告書	〃	1992
134	賀来中学校遺跡	〃	〃
135	長谷横穴墓群	〃	〃
136	虚空蔵寺遺跡(一般国道10号宇佐・別府道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報Ⅱ)	宇佐市教育委員	1992
137	下林遺跡(一般国道10号宇佐・別府道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報Ⅱ)	〃	〃
138	川部遺跡・小部遺跡8次調査(宇佐地区遺跡群発掘調査概報)	〃	〃
139	山ノ下横穴墓群・中原遺跡(一般国道387号線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査概報)	〃	〃
140	史跡岡城跡Ⅶ	竹田市教育委員会	1992
141	岡藩主おたまや公園整備事業報告書Ⅲ	〃	〃
142	平井A・原山B遺跡	〃	〃
143	広域農道大野川上流南部地区埋蔵文化財発掘調査概報Ⅱ	〃	〃
144	管生台地と周辺の遺跡XV	〃	〃
145	竹田地区南部遺跡群Ⅲ	〃	〃
146	三光地区遺跡群発掘調査概報Ⅱ	三光村教育委員会	1992
147	朝地地区遺跡群発掘調査概報Ⅶ	朝地町教育委員会	1992
148	駒方津室迫遺跡・夏足原遺跡－O地区－(大野地区遺跡群発掘調査報告書)	大野町教育委員会	1992
149	駒方津室迫遺跡の構造論的研究-剥片剥離・石器製作技術の考察と遺跡の復元-	別府大学付属博物館	1993
宮崎県			
150	海蔵寺遺跡・様屋敷遺跡(国道221号線 ^ハ イ ^ス 建設関係発掘調査報告書)	宮崎県教育委員会	1992
151	穂北城跡(県道杉安・高鍋線道路改良工事関係発掘調査報告書)	〃	〃
152	樺山・郡元地区遺跡(一年見川小規模河川改修事業に伴う埋蔵文化財調査報告書)	〃	〃

	書名	寄贈者	刊行年
153	内野々遺跡(林業試験場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書)	〃	〃
154	田代ヶ八重遺跡(綾北川総合開発建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書)	〃	〃
155	永田原遺跡・小木原遺跡群・蕨地区口ノ坪遺跡 えびの市埋蔵文化財調査報告書第6集	えびの市教育委員会	1990
156	長江浦遺跡群水流・馬場田遺跡 えびの市埋蔵文化財調査報告書第10集	〃	1992
157	上南方地区遺跡 延岡市文化財調査報告第6集	延岡市教育委員会	1992
158	差木野遺跡 延岡市文化財調査報告第8集	〃	〃
159	天ヶ谷遺跡 野尻町文化財調査報告書第5集	野尻町教育委員会	1992
160	速日峰地区遺跡Ⅱ 北方町文化財調査報告書第3集	北方町教育委員会	1992
161	笠下下原遺跡 北方町文化財調査報告書第4集	〃	〃
162	南久保山小掘町遺跡 北方町文化財調査報告書第5集	〃	〃
163	高岡町遺跡詳細分布調査報告書 高岡町埋蔵文化財調査報告書第2集	高岡町教育委員会	1992
164	丸野第2遺跡 田野町文化財調査報告書第11集	田野町教育委員会	1990
165	八重地区遺跡 田野町文化財調査報告書第12集	〃	1991
166	二ツ山第1遺跡 田野町文化財調査報告書第13集	田野町教育委員会	1992
167	井手ノ尾遺跡 田野町文化財調査報告書第14集	〃	〃
168	二ツ山第3遺跡 田野町文化財調査報告書第15集	〃	〃
	鹿児島県		
169	埋文だより 創刊号・第2号	鹿児島県立埋蔵文化財センター	1992-
170	鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅶ	鹿児島大学	1993 1992

平成4年度（1992年度）
日田市埋蔵文化財年報

発行日 平成6年3月31日

編集 日田市教育委員会

発行 〒877 大分県日田市田島2-6-1

TEL 0973-23-3111

印刷 (有)尾花印刷